

平成 18 年度 環境モニター・アンケート

「水辺環境について」の調査結果

平成 19 年 3 月

環境省 水・大気環境局 水環境課

目次

1 . 調査概要	1
2 . 調査結果	4
2.1 身近な水辺への関心 (質問 1)	4
2.2 水辺の利用状況 (質問 2)	9
2.3 水辺環境 (質問 3)	22
2.4 水質環境基準等について (質問 4)	29
2.5 水環境保全活動 (質問 5)	33
2.6 水環境保全に関する家庭での取組 (質問 6)	36
2.7 水環境に関する情報の入手 (質問 7)	38
2.8 水環境保全の取組に必要な情報 (質問 8)	40
2.9 水辺の環境に関する意見 (質問 9)	41
3 . 過去のアンケート結果との比較	42
3.1 水環境保全活動 (質問 5)	42
3.2 水環境保全に関する家庭での取組 (質問 6)	44
3.3 水環境保全の取組に必要な情報 (質問 8)	46

< 報告書のみかた >

- ・ 比率はすべて小数第 1 位を四捨五入して、グラフ内に整数で表示している (但し、0.5%未満は小数第 1 位表示)。また、その結果により比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の場合は、比率の合計が 100%を超えることがある。
- ・ 標本特性別 (性別、年齢層別) のグラフにおいて、「不明」は回答の比率が小さいことから、表示を省いている。

1. 調査概要

1) 目的

本調査では、国民の水辺の環境に対する考え方を把握するために、水辺への関心、親水活動の現状、水質項目、環境保全活動への取組状況等について意識調査を実施したものである。

2) 実施内容

環境省では、環境問題についての国民の意見、要望を全国的に把握し、環境政策の企画立案等に反映させることを目的に環境モニターを委嘱している。

本調査では、地方環境事務所からの推薦により、都道府県ごとに選考された全国 500 名の環境モニターに対して、平成 19 年 1～2 月にアンケート調査を実施した。

アンケートの全回答者は男性 198 名、女性 174 名、不明 4 名の計 376 名（図 1-1）であり、有効回答率は 75.2%である。また、年齢層別の内訳では 20 歳以上 30 歳未満が 25 名、30 歳以上 40 歳未満が 67 名、40 歳以上 50 歳未満が 59 名、50 歳以上 60 歳未満が 75 名、60 歳以上が 142 名、不明が 8 名である（図 1-2）。地域別の内訳では北海道・東北が 48 名、関東・甲信越が 117 名、中部・北陸が 58 名、近畿が 49 名、中国・四国が 53 名、九州が 51 名である（図 1-3）。

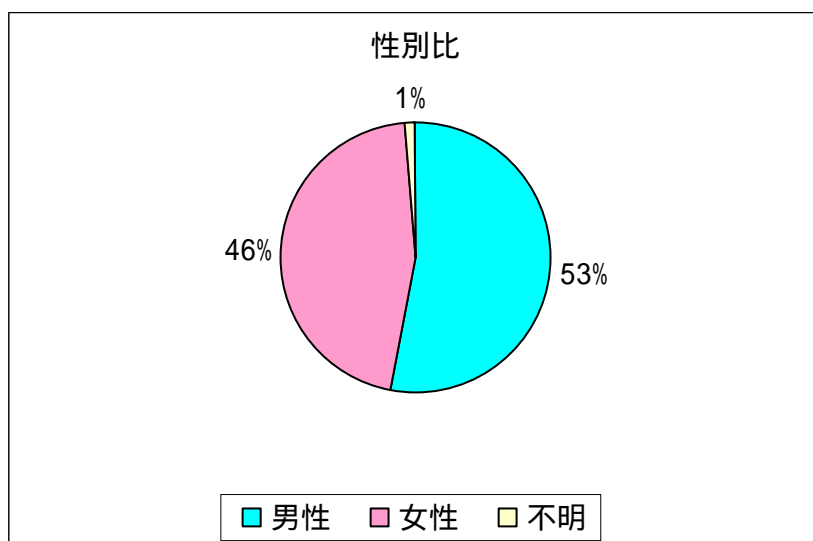


図 1-1 アンケート回答者の性別比

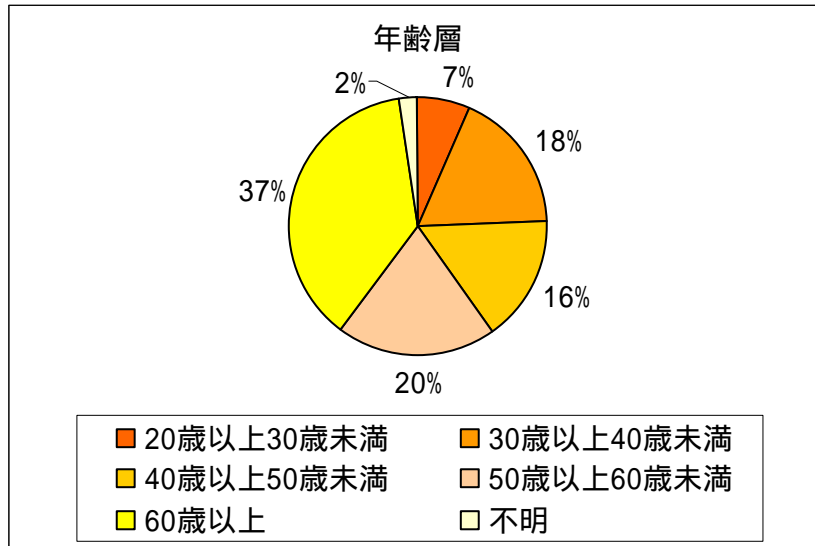


図 1-2 アンケート回答者の年齢層

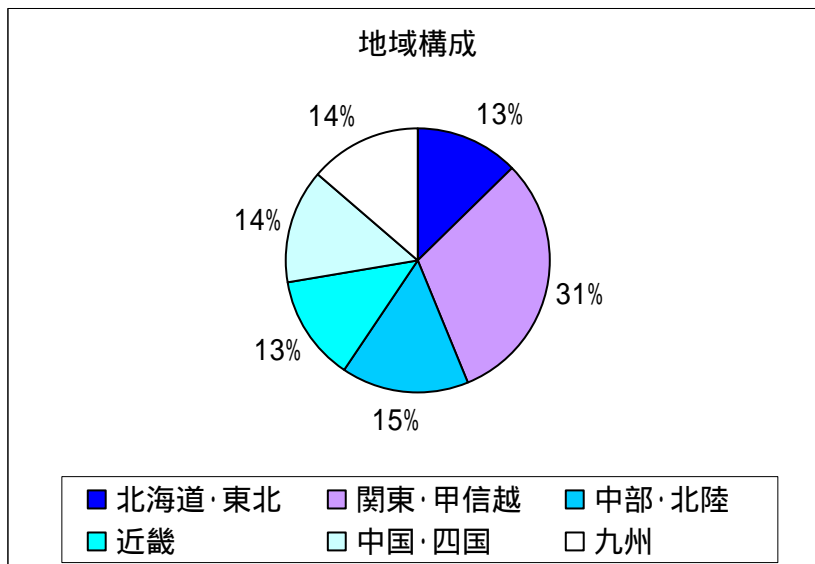


図 1-3 アンケート回答者の地域構成

2. 調査結果

2.1 身近な水辺への関心

質問 1

【設問】あなたの住んでいる家から最も近くにある水辺（川、湖、海、池等）について教えてください。

質問 1・1（身近な水辺の環境）

【設問】その水辺をどう思っていますか。次の中から 1 つを選んでください。

良い環境だと思う

良い環境とは思えない

どちらとも言えない

近くに水辺はない

を回答した人は質問 2 へ

【回答】

- ・身近な水辺の環境は、全回答者の 40%が「良い環境とは思えない」とし、次いで 38%が「良い環境だと思う」と回答している（図 2-1-1）。
- ・性別では、男性は「良い環境とは思えない」、「良い環境だと思う」とも同率、女性は「良い環境とは思えない」、「良い環境だと思う」の順となっている。（図 2-1-2）
- ・年齢層別にみると、20 歳以上から 50 歳未満までは全回答者と同様に「良い環境とは思えない」、「良い環境だと思う」の順である。特に、20 歳以上 30 歳未満では「良い環境だと思う」の回答率が少なく 12%である。また、50 歳以上の年齢では、「良い環境だと思う」の回答率が「良い環境とは思えない」の回答率をやや上回っている（図 2-1-3）。
- ・地域別にみると、北海道・東北、中部・北陸では、「良い環境だと思う」の回答率が「良い環境とは思えない」の回答率を上回っており、特に北海道・東北では、「良い環境」の回答が 54%を示している。その他の関東・甲信越、近畿、中国・四国、九州は「良い環境とは思えない」、「良い環境だと思う」の順となっている（図 2-1-4）。

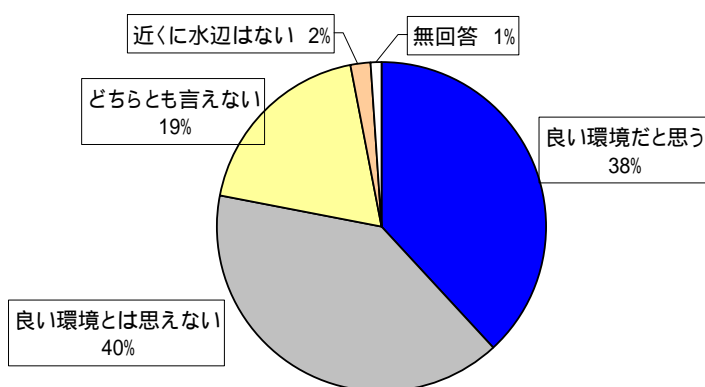


図 2-1-1 身近な水辺の環境（全回答者）

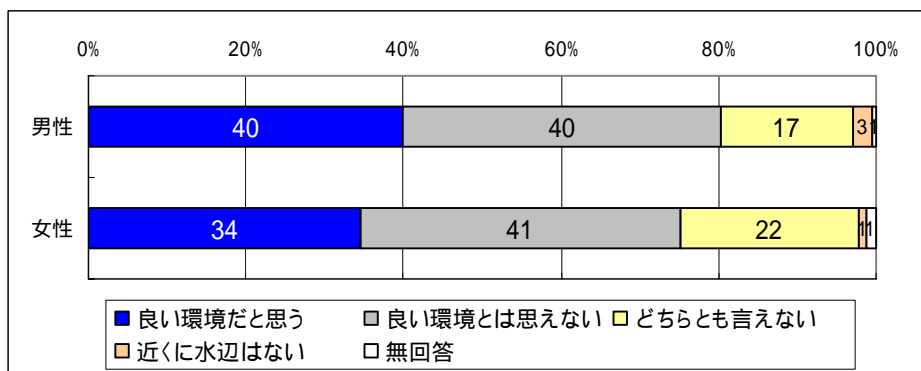


図 2-1-2 身近な水辺の環境（性別）

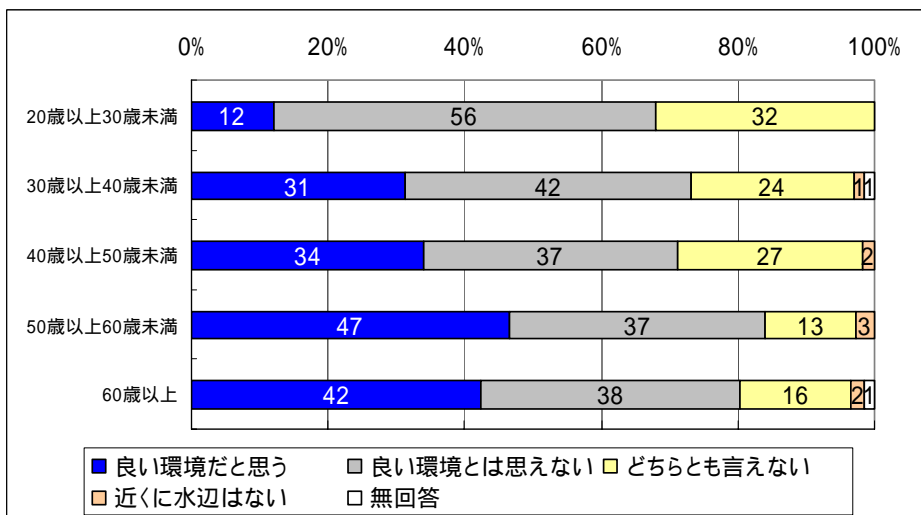


図 2-1-3 身近な水辺の環境（年齢層別）

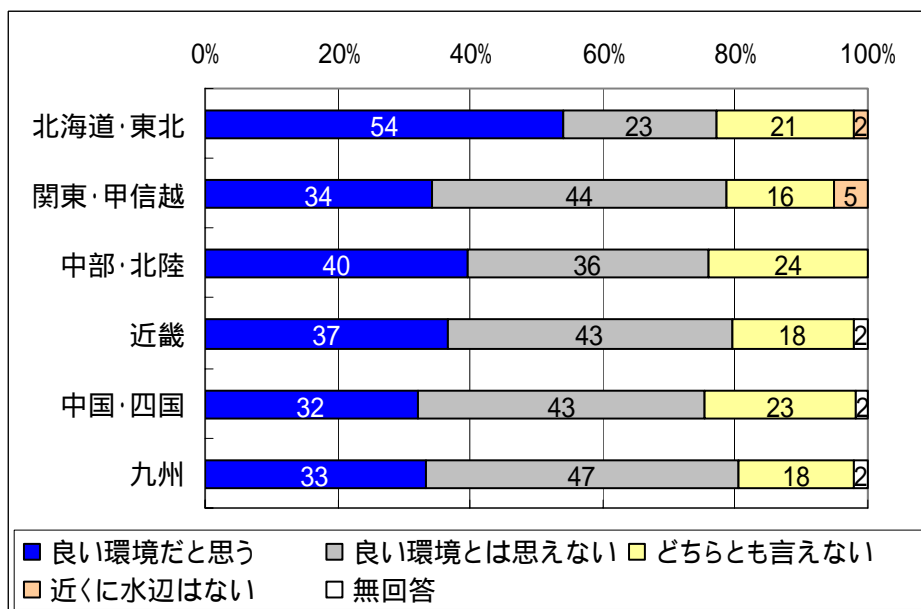


図 2-1-4 身近な水辺の環境（地域別）

質問 1・2 (身近な水辺の水質環境の変化)

【設問】その水辺の水質は、昔(10年~20年前)と比較してどうなりましたか。次の中から1つを選んでください。

- 大変きれいになった
- きれいになった
- あまり変わらない
- 汚くなった
- 大変汚くなった
- わからない

【回答】

- ・身近な水辺の水質は、全回答者の36%が昔と比較して「あまり変わらない」とし、次いで「汚くなった」が23%、「きれいになった」が21%等である(図2-1-5)。
- ・質問1-1の回答別にみると、身近な水辺を「良い環境だと思う」とする回答者は、昔と比較して「きれいになった」または、「大変きれいになった」という回答が36%、「汚くなった」または、「大変汚くなった」という回答が15%であった。
- ・一方、質問1-1の回答において身近な水辺を「良い環境とは思えない」とする回答者は、昔と比較して「きれいになった」または、「大変きれいになった」と回答するのが17%、「汚くなった」または、「大変汚くなった」と回答するのが41%であった。(図2-1-6)。
- ・年齢層別にみると、30歳以上40歳未満及び50歳以上の年齢では全回答者と同様に「あまり変わらない」の回答率が最も高いが、20歳以上30歳未満及び40歳以上50歳未満では「汚くなった」の回答率が「あまり変わらない」をやや上回っている。なお、40歳以上の年齢では「大変きれいになった」と評価した回答者も僅かにみられる(図2-1-7)。
- ・地域別にみると、北海道・東北、関東・甲信越、中部・北陸、近畿では、全回答者と同様に「あまり変わらない」の回答率が高いが、中国・四国、九州は「汚くなった」が「あまり変わらない」をやや上回っている(図2-1-8)。

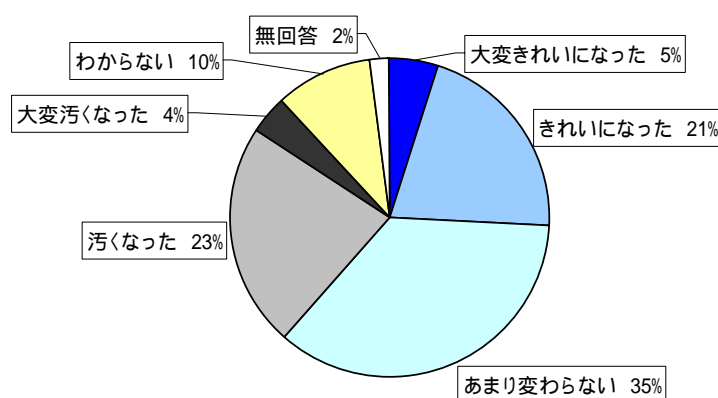


図 2-1-5 身近な水辺の水質環境の変化 (全回答者)

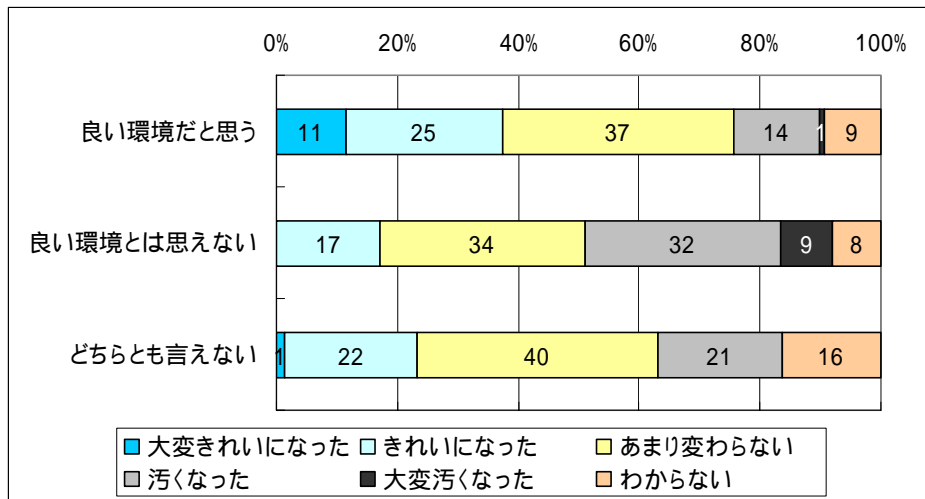


図 2-1-6 身近な水辺の水質環境の変化（質問 1-1 回答別）

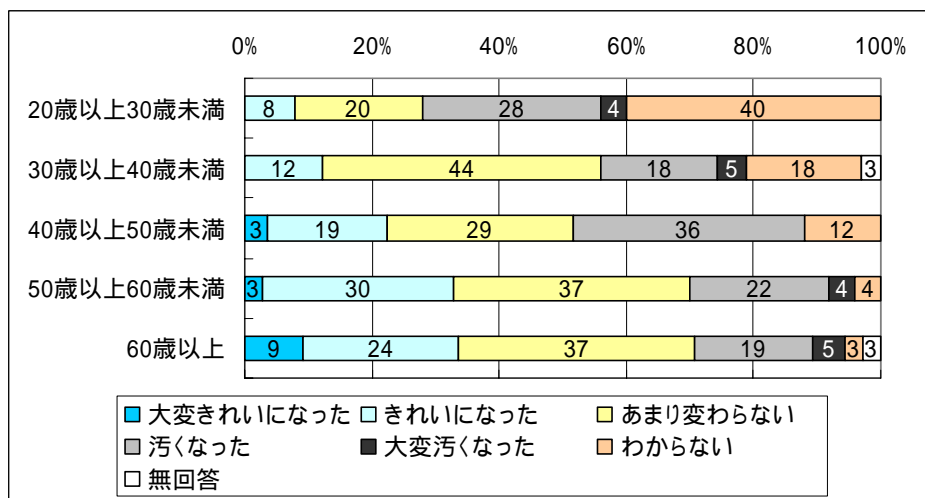


図 2-1-7 身近な水辺の水質環境の変化（年齢層別）

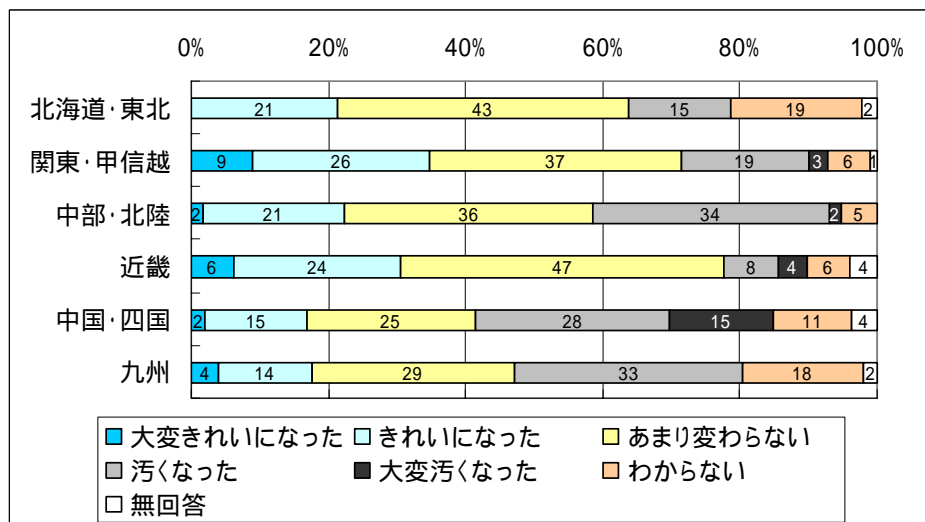


図 2-1-8 身近な水辺の水質環境の変化（地域別）

質問 1・3 (良い環境とは思えない水辺の理由)

【設問】質問 1・1 で良い環境とは思えない水辺がある (と) と答えた方は、その理由を次の中から 1 つを選んでください。「 その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

- 水が汚い
- 臭いがある
- ゴミが多い
- 危険を感じる
- 公園などとしての整備がされていない
- 生き物がいない
- その他

【回答】

- ・良い環境とは思えない水辺の理由は、回答者 (問 1・1 で良い環境だとは思わない (と) と回答した 225 人) の 30% が「ゴミが多い」とし、次いで 28% が「水が汚い」等である (図 2-1-9)。
- ・回答者の 23% が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「護岸整備などによる自然度や親水性の低下」(16 件) が最も多く、次いで「生物相の変化又は貧相化」(10 件)、「水量などの管理不十分」(8 件)、「排水処理の不徹底」(8 件)、「環境教育の不足による自然環境の悪化」(2 件)、「埋立による流砂発生」(1 件)、「赤土流出による底泥の悪化」(1 件)、「水あかなどによる水底の悪化」(1 件) 等である。

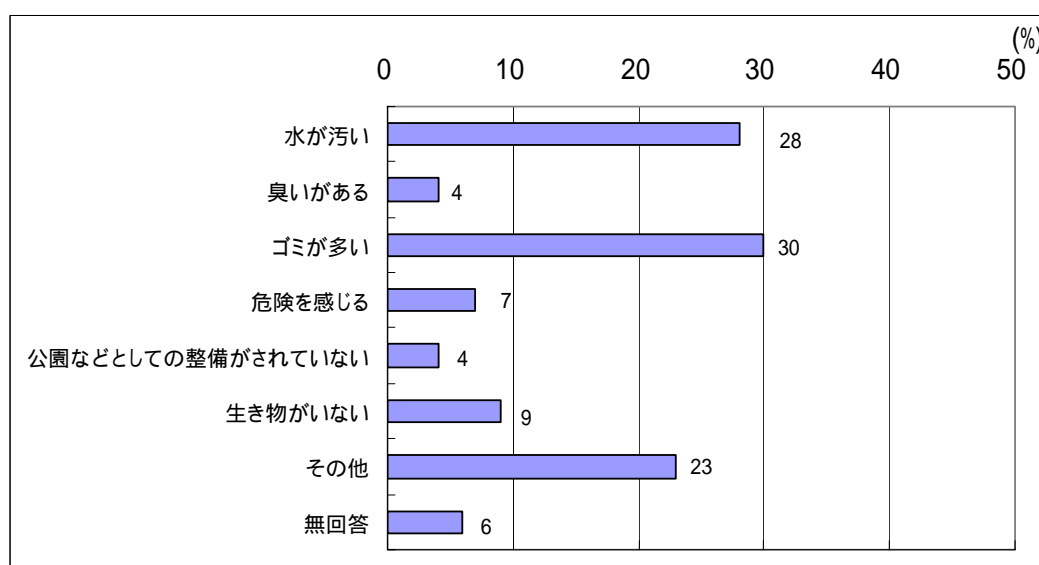


図 2-1-9 良い環境とは思えない水辺の理由 (回答者: 問 1・1 で良い環境だとは思わない (と) と回答した 225 人)

2.2 水辺の利用状況

質問2

【設問】近年（過去2～3年程度）質問1以外の水辺も含めて、あなたやあなたの家族が親水活動（水に近づいたり水に触れるレクリエーション等）の場として利用している水辺について詳しく教えてください。

質問2・1（利用する水辺の種類）

【設問】あなたは、親水活動の場として、どのような水辺を利用していますか。あてはまる水辺を全て回答してください。

川

池や湖・ダム湖

海

その他（公園の池、用水路等）

利用しない

を回答した人は質問3へ

【回答】

・親水活動の場としての水辺の利用区域は、全回答者の73%が「川」と回答している。次いで「海」の割合が高く57%、「池や湖・ダム湖」が43%であり、「その他」の公園の池や用水路等も比較的高く42%等である（図2-2-1）。

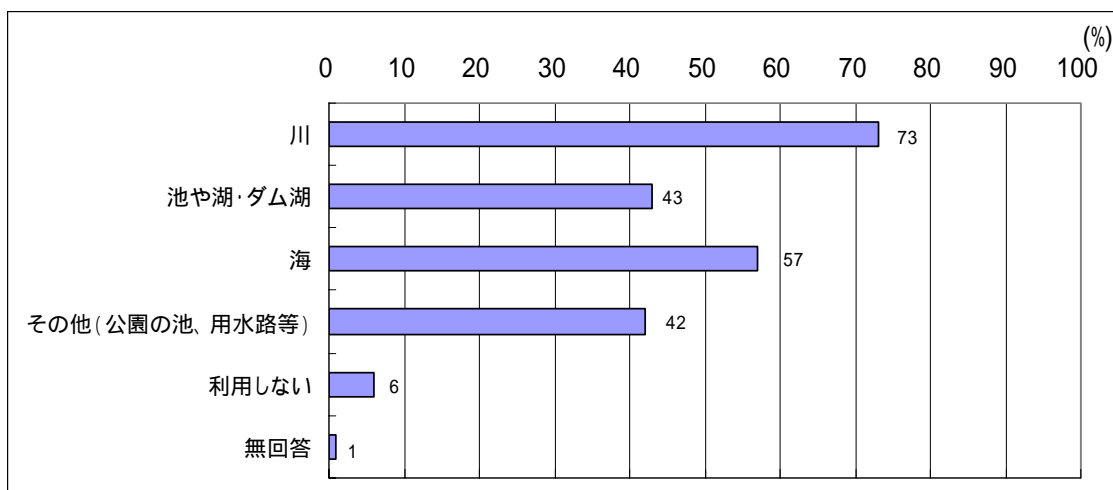


図 2-2-1 利用する水辺の種類（全回答者）

質問2・2（水辺の利用のしかた）

【設問】質問2・1で回答した水辺をどのように利用していますか。それぞれの水辺について、**あてはまるものを全て回答**してください。「その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

遊泳

水遊び（手足をつける程度）

釣り

釣り以外の生き物採取（潮干狩り等）

生き物観察

水辺の散歩やサイクリング等

水面を利用したスポーツ（ボート、カヌー等）

水に触れながら行うスポーツ（ダイビング、サーフィン等）

風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）

その他

【回答】

「川」の利用のしかた

- ・「川」の利用のしかたは、回答者（質問2・1で川を利用する（ ）と答えた275人）の57%が「水辺の散歩やサイクリング等」で最も高く、次いで「風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）」が高く54%、「生き物観察」が49%等である（図2-2-2）。
- ・12%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「河川敷におけるバーベキューなどのレクリエーション」（13件）が最も多く、次いで「環境教育の場」（6件）、「生物とのふれあいの場」（1件）、「舟遊び」（1件）、「避暑」（1件）等である。

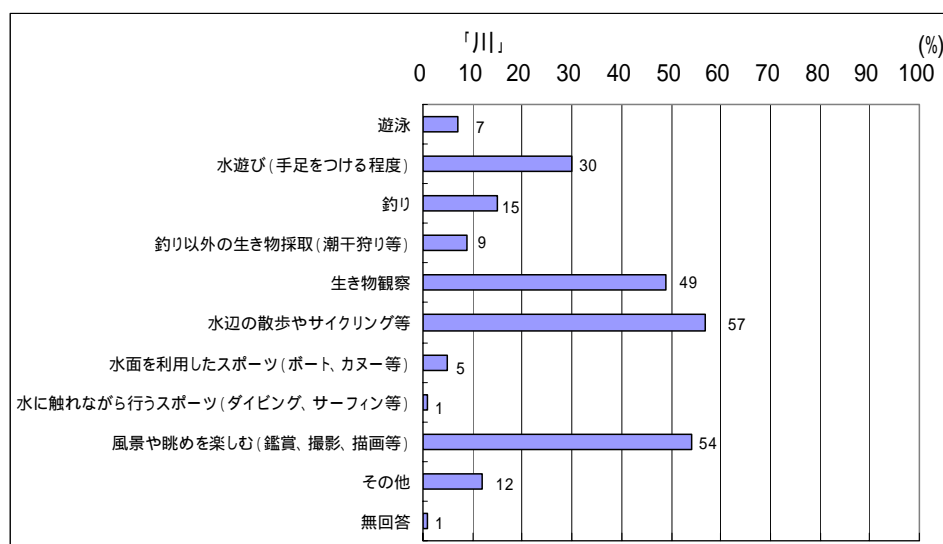


図2-2-2 川の利用のしかた（回答者：質問2・1で川を利用する（ ）と答えた275人）

「池や湖・ダム湖」の利用のしかた

- ・「池や湖・ダム湖」での利用のしかたは、回答者（質問2・1で池や湖・ダム湖を利用する（ ）と答えた161人）の78%が「風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）」で最も高く、次いで「水辺の散歩やサイクリング等」が高く50%、「生き物観察」が37%等である（図2-2-3）。

・9%の回答者は「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「環境教育の場」(2件)、「周辺でのレクリエーション」(1件)、「生物とのふれあいの場」(1件)、「付帯施設の見学利用」(1件)、「避暑」(1件)等である。

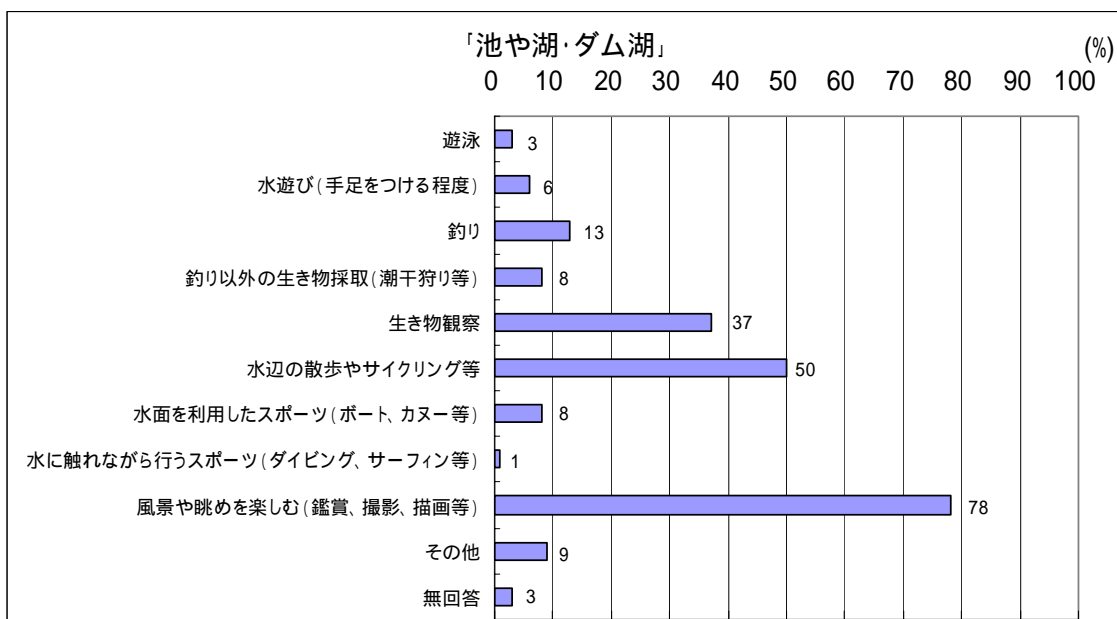


図 2-2-3 池や湖・ダム湖の利用のしかた (回答者：質問2・1で池や湖・ダム湖を利用する()と答えた161人)

「海」の利用のしかた

- ・「海」での利用のしかたは、回答者(質問2・1で海を利用する()と答えた215人)の53%が「風景や眺めを楽しむ(鑑賞、撮影、描画等)」で最も高く、次いで「遊泳」が高く47%、「水遊び(手足をつける程度)」が30%等である(図2-2-4)。
- ・7%の回答者は「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「海岸での貝殻などの収集」(4件)、「海岸におけるバーベキューなどのレクリエーション」(3件)、「周辺施設の見学利用」(3件)等である。

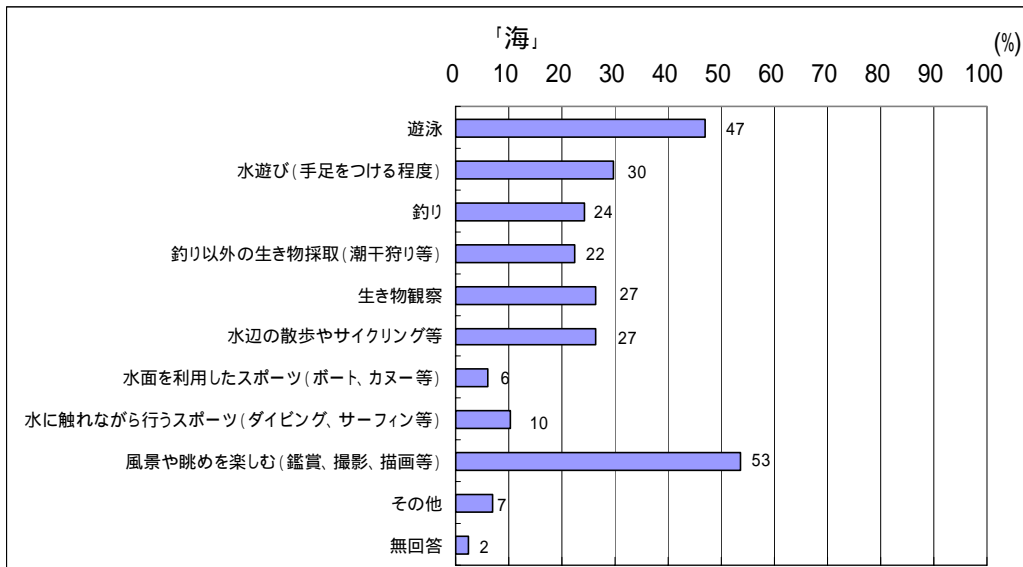


図 2-2-4 海の利用のしかた（回答者：質問 2・1 で海を利用する（ ）と答えた 215 人）

「その他（公園の池や用水路等）」の利用のしかた

- ・「その他（公園の池や用水路等）」での利用のしかたは、回答者（質問 2・1 でその他（公園の池や用水路等）を利用する（ ）と答えた 157 人）の 25%が「生き物観察」で最も高く、次いで「風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）」が高く 22%、「水辺の散歩やサイクリング等」が 20%等である（図 2-2-5）。
- ・10%の回答者は「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「環境教育の場」（5 件）、「周辺でのレクリエーション」（2 件）、「イベント時の利用」（1 件）等である。

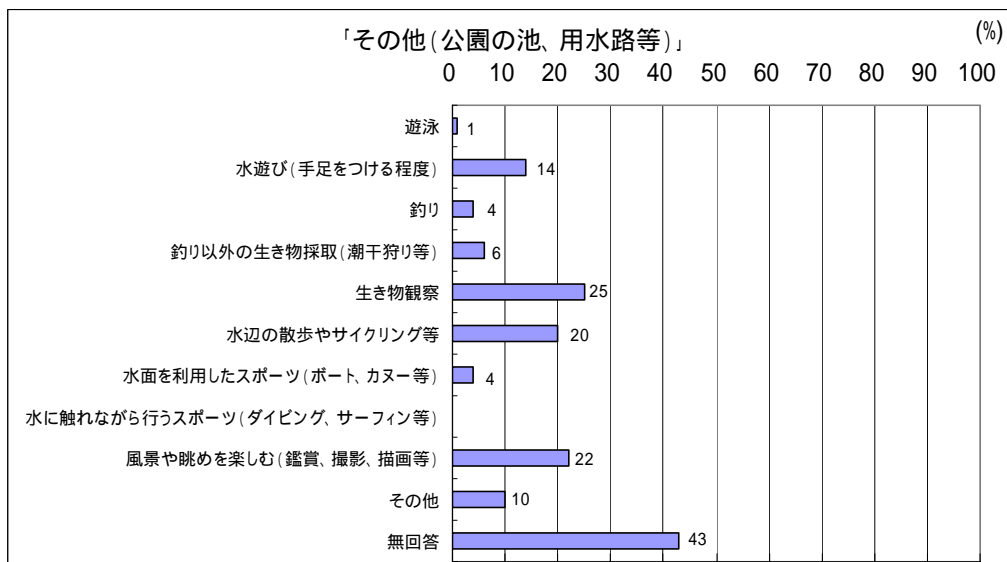


図 2-2-5 その他（公園の池や用水路等）の利用のしかた（回答者：質問 2・1 でその他（公園の池や用水路等）を利用する（ ）と答えた 157 人）

質問2・3（水辺の利用頻度）

【設問】質問2・1で回答した水辺をどのくらいの頻度で利用していますか。それぞれの水辺に行く頻度について、次の中から1つを選んでください。

- 週1回以上
- 月1回程度
- 年数回程度
- 数年に1回程度

【回答】

「川」の利用頻度

- ・「川」の利用頻度は、回答者（質問2・1で川を利用する（ ）と答えた275人）の39%が「年数回程度」で最も高く、次いで「週1回以上」が高く30%、「月1回程度」が26%等である（図2-2-6）。

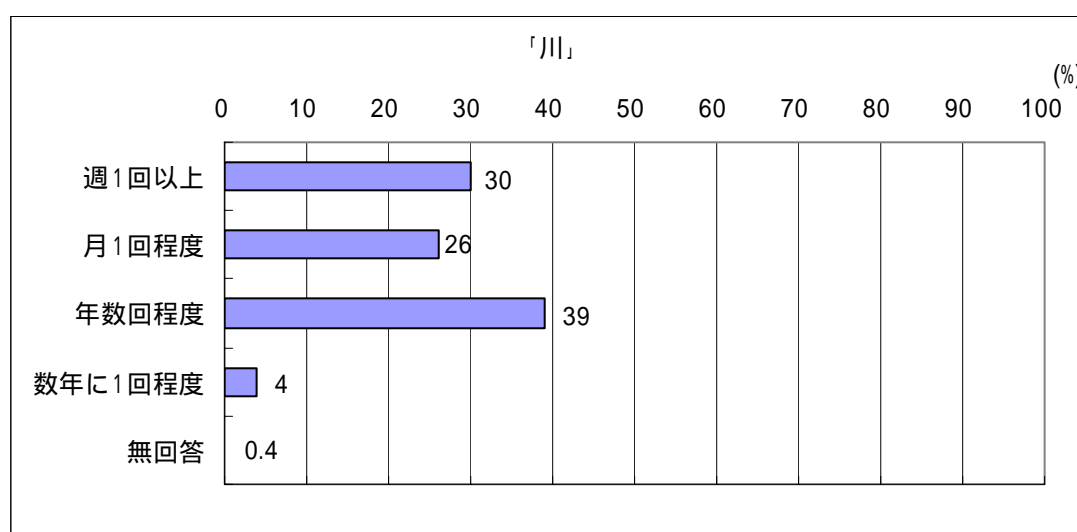


図 2-2-6 川の利用頻度（回答者：質問2・1で川を利用する（ ）と答えた275人）

「池や湖・ダム湖」の利用頻度

- ・「池や湖・ダム湖」の利用頻度は、回答者（質問2・1で池や湖・ダム湖を利用する（ ）と答えた161人）の57%が「年数回程度」で最も高く、次いで「月1回程度」が高く20%、「週1回以上」が11%等である（図2-2-7）。

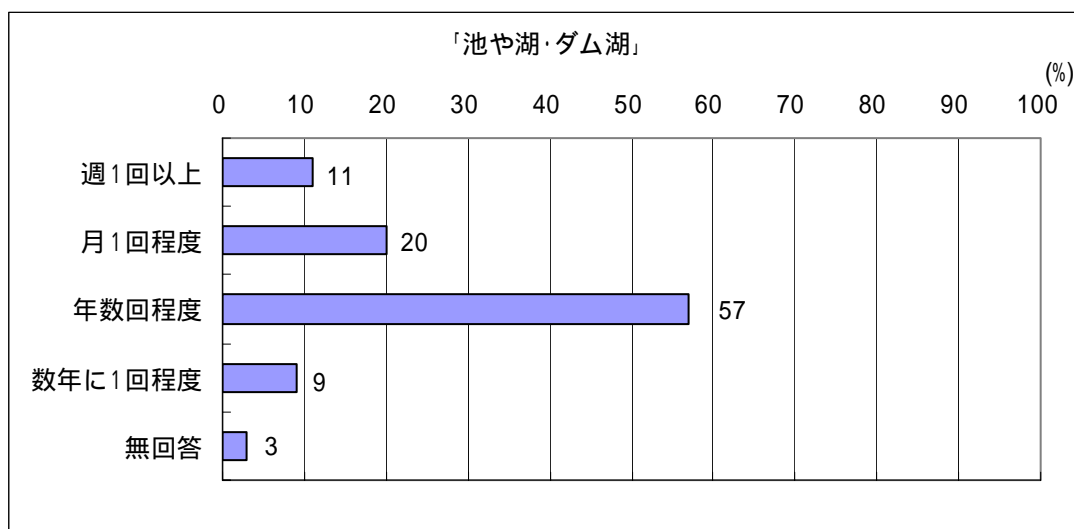


図 2-2-7 池や湖・ダム湖の利用頻度（回答者：質問 2・1 で池や湖・ダム湖を利用する（ ）と答えた 161 人）

「海」の利用頻度

・「海」の利用頻度は、回答者（質問 2・1 で海を利用する（ ）と答えた 215 人）の 63% が「年数回程度」で最も高く、次いで「数年に 1 回程度」が高く 16%、「週 1 回以上」と「月 1 回程度」は同率で 9～10% である（図 2-2-8）。

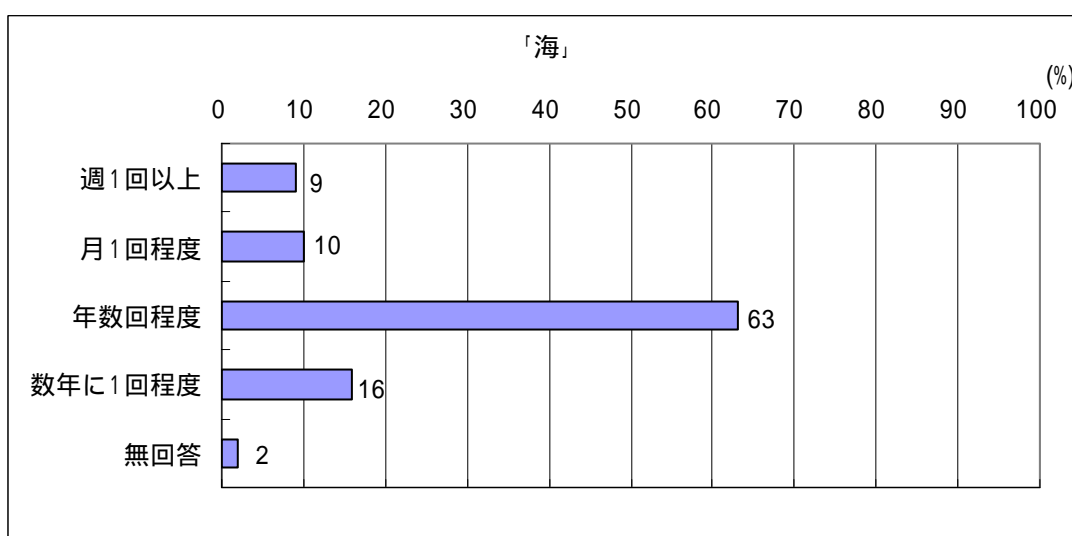


図 2-2-8 海の利用頻度（回答者：質問 2・1 で海を利用する（ ）と答えた 215 人）

「その他」の利用頻度

- ・「その他（公園の池や用水路等）」の利用頻度は、回答者（質問2・1でその他（公園の池や用水路等）を利用する（ ）と答えた157人）の36%が「年数回程度」で最も高く、次いで「月1回程度」が高く27%、「週1回以上」が高く12%等である（図2-2-9）。

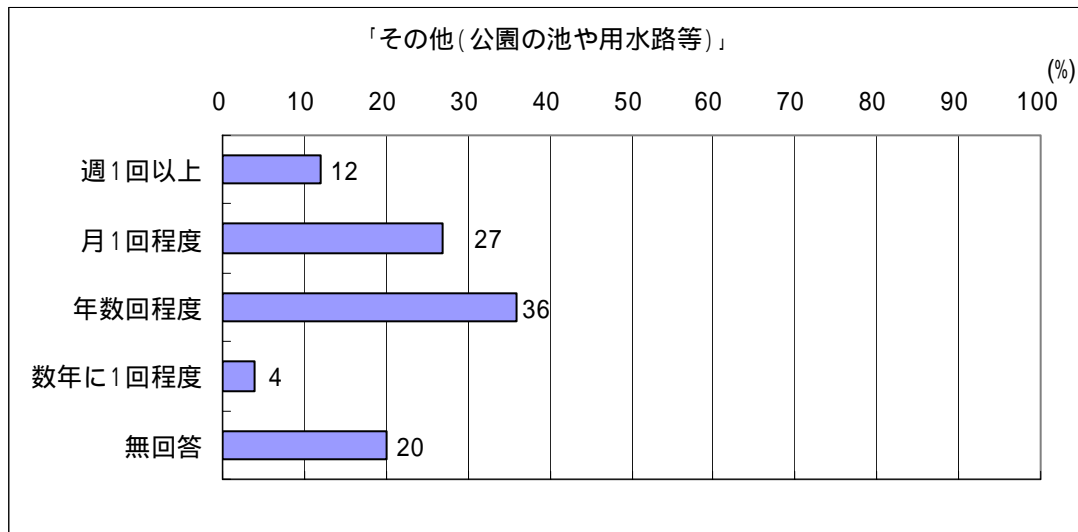


図 2-2-9 その他（公園の池や用水路等）の利用頻度（回答者：質問2・1でその他（公園の池や用水路等）を利用する（ ）と答えた157人）

質問2・4（水辺を利用する季節）

【設問】質問2・2で回答した水辺の利用は季節によって変わりますか。それぞれの利用内容について、次の中から1つを選んでください。

- 夏によく利用する
- 春・秋によく利用する
- 冬によく利用する
- 通年、あまりかわらない
- その他

【回答】

「遊泳」で利用する季節

- ・「遊泳」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「遊泳」()で利用すると答えた116人)の96%が「夏によく利用する」であり、そのほとんどを占めている(図2-2-10)。

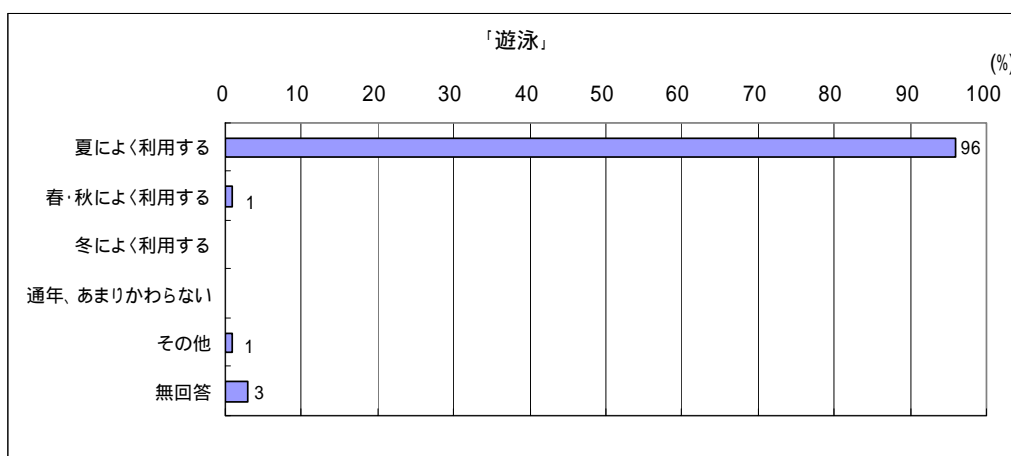


図2-2-10 「遊泳」で利用する季節（回答者：質問2・2で「遊泳」()で利用すると答えた116人）

「水遊び」で利用する季節

- ・「水遊び」で利用する季節は、回答者(質問2・2で水遊び()で利用すると答えた133人)の76%が「夏によく利用する」で「春・秋によく利用する」が11%等である(図2-2-11)。

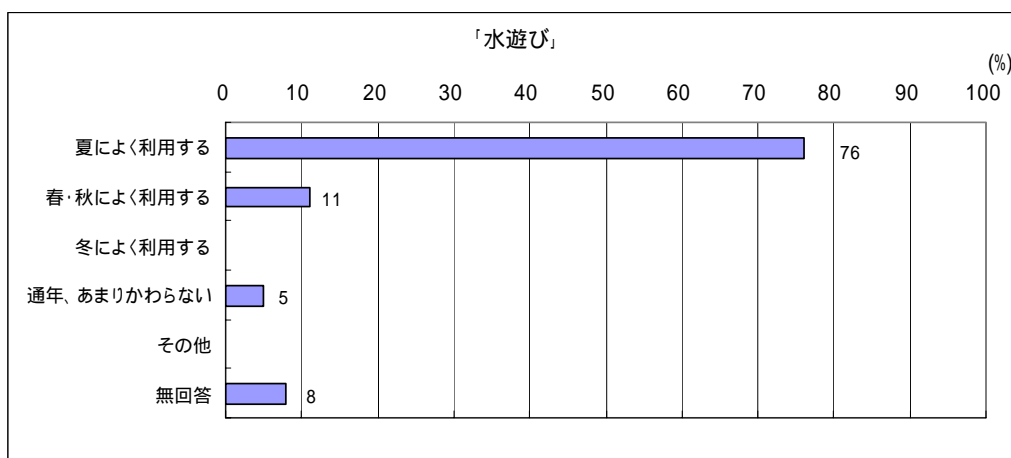


図2-2-11 「水遊び」で利用する季節(回答者:質問2・2で「水遊び」()で利用すると答えた133人)

「釣り」で利用する季節

- ・「釣り」で利用する季節は、回答者(質問2・2で釣り()で利用すると答えた86人)の36%が「春・秋によく利用する」が最も高く、次いで「夏によく利用する」が高く31%、「通年、あまりかわらない」が26%等である(図2-2-12)。

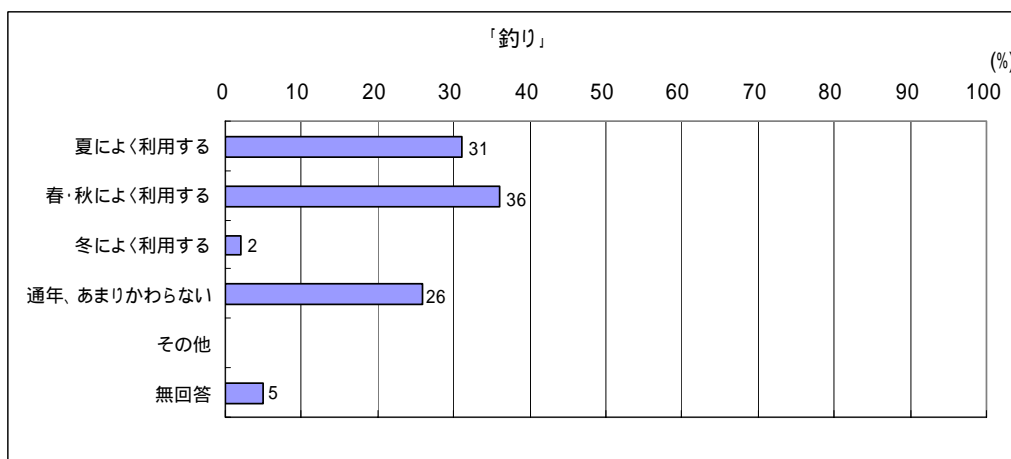


図2-2-12 「釣り」で利用する季節(回答者:質問2・2で「釣り」()で利用すると答えた86人)

「釣り以外の生き物採取」で利用する季節

- ・「釣り以外の生き物採取」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「釣り以外の生き物採取」()で利用すると答えた69人)の51%が「夏によく利用する」で最も高く、次いで「春・秋によく利用する」が29%、「通年、あまりかわらない」が7%等である(図2-2-13)。

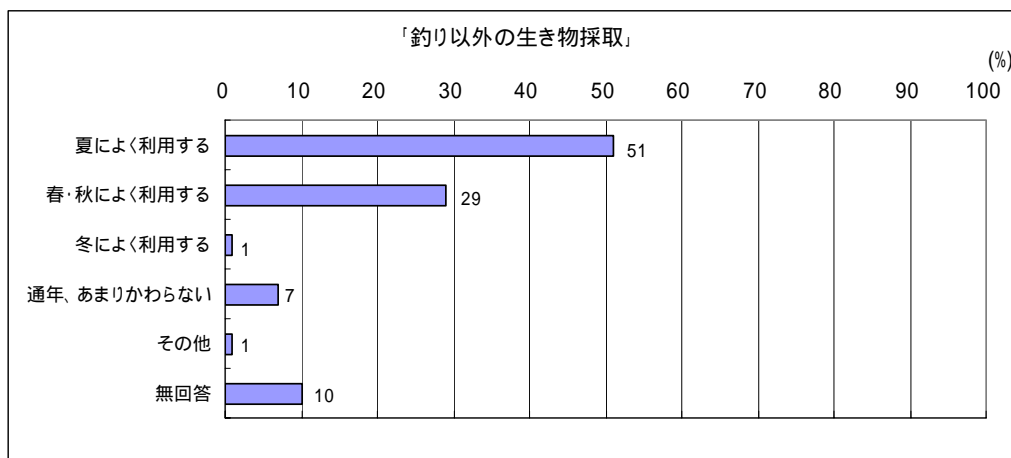


図 2-2-13 「釣り以外の生き物採取」で利用する季節 (回答者: 質問2・2で「釣り以外の生き物採取」()で利用すると答えた69人)

「生き物観察」で利用する季節

- ・「生き物観察」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「生き物観察」()で利用すると答えた183人)の44%が「通年、あまりかわらない」で最も高く、次いで「夏によく利用する」が高く28%、「春・秋によく利用する」が21%等である(図2-2-14)。

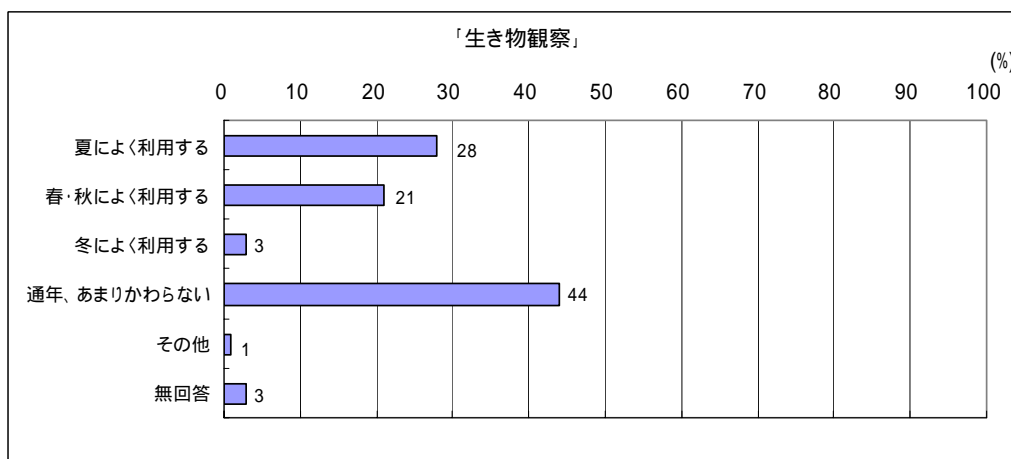


図 2-2-14 「生き物観察」で利用する季節 (回答者: (質問2・2で「生き物観察」()で利用すると答えた183人)

「水辺の散歩やサイクリング等」で利用する季節

- ・「水辺の散歩やサイクリング等」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「水辺の散歩やサイクリング等」()で利用すると答えた212人)の48%が「通年、あまりかわらない」で最も高く、次いで「春・秋によく利用する」が高く33%、「夏によく利用する」が10%等である(図2-2-15)。

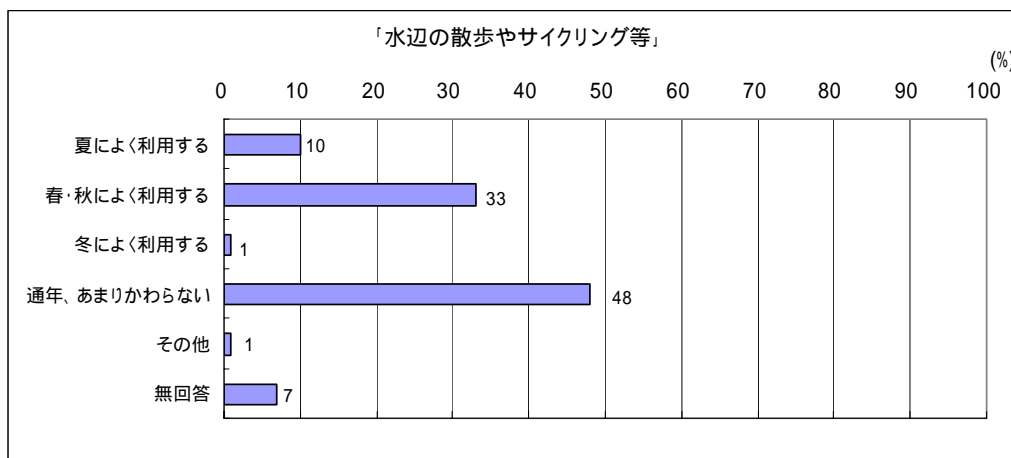


図2-2-15 「水辺の散歩やサイクリング等」で利用する季節(回答者:質問2・2で「水辺の散歩やサイクリング等」()で利用すると答えた212人)

「水面を利用したスポーツ」で利用する季節

- ・「水面を利用したスポーツ」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「水面を利用したスポーツ」()で利用すると答えた32人)の69%が「夏によく利用する」で最も高く、そのほとんどを占めている(図2-2-16)。

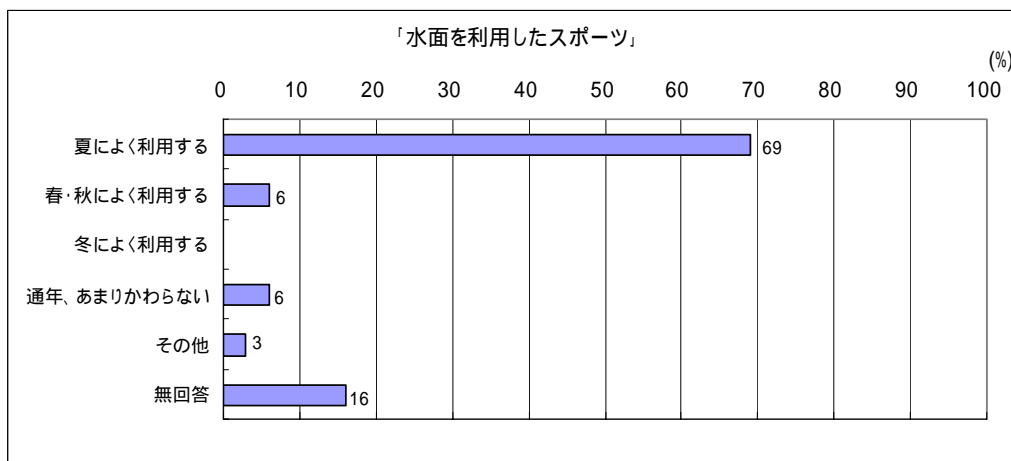


図2-2-16 「水面を利用したスポーツ」で利用する季節(回答者:質問2・2で「水面を利用したスポーツ」()で利用すると答えた32人)

「水に触れながら行うスポーツ」で利用する季節

- ・「水に触れながら行うスポーツ」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「水に触れながら行うスポーツ」()で利用すると答えた23人)の70%が「夏によく利用する」で最も高く、そのほとんどを占めている(図2-2-17)。

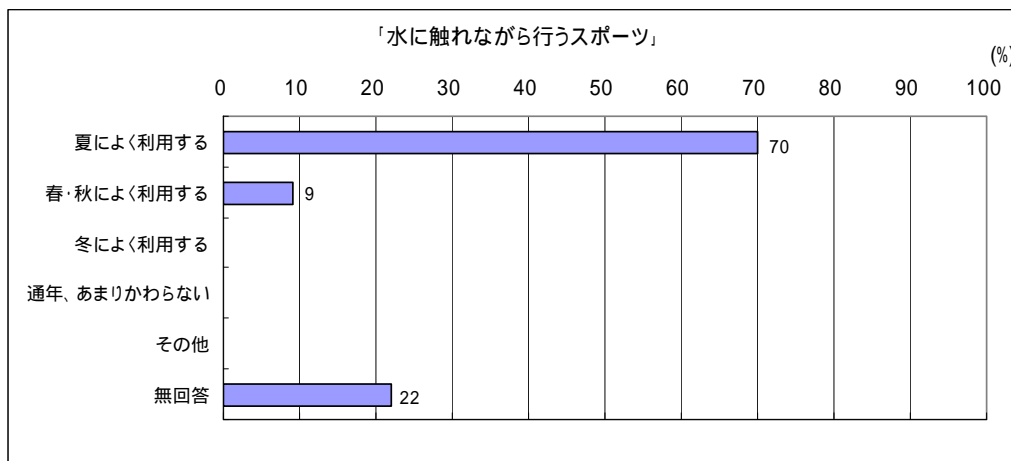


図 2-2-17 「水に触れながら行うスポーツ」で利用する季節(回答者:質問2・2で「水に触れながら行うスポーツ」()で利用すると答えた23人)

「風景や眺めを楽しむ」で利用する季節

- ・「風景や眺めを楽しむ」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「風景や眺めを楽しむ」()で利用すると答えた258人)の60%が「通年、あまりかわらない」で最も高く、次いで「春・秋によく利用する」が高く27%、「夏によく利用する」が9%等である(図2-2-18)。

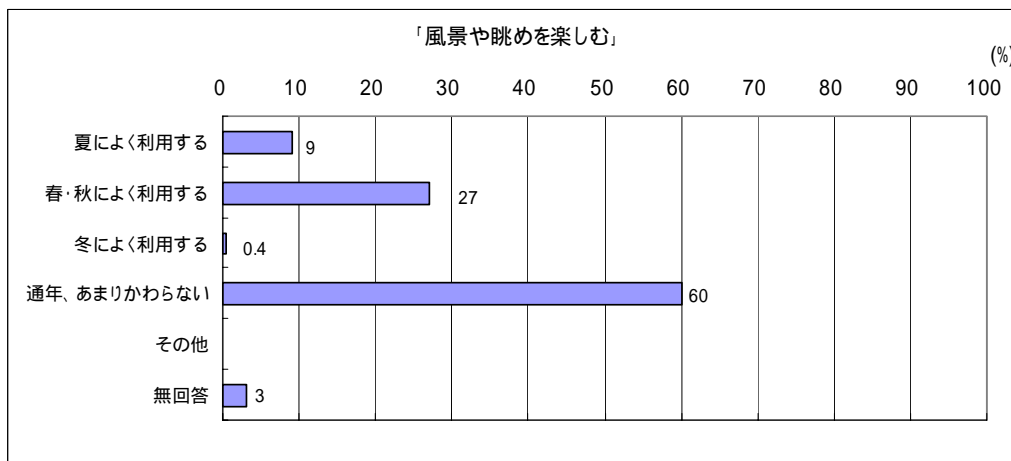


図 2-2-18 「風景や眺めを楽しむ」で利用する季節(回答者:質問2・2で「風景や眺めを楽しむ」()で利用すると答えた258人)

「その他」で利用する季節

- ・「その他」で利用する季節は、回答者(質問2・2で「その他」()で利用すると答えた 59 人)の 31%が「通年、あまりかわらない」で最も高く、次いで「夏によく利用する」が 20%等である (図 2-2-19)。

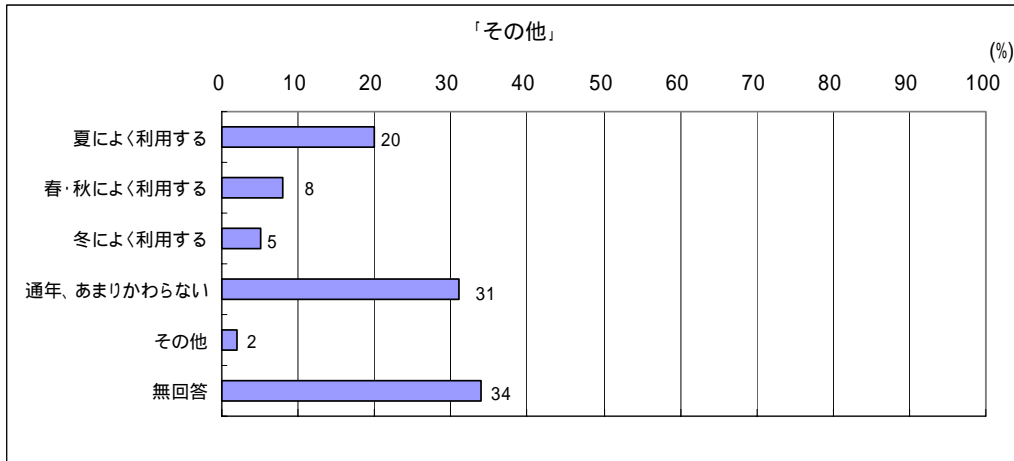


図 2-2-19 「その他」で利用する季節(回答者:質問2・2で「その他」()で利用すると答えた 59 人)

2.3 水辺環境

質問3

【設問】質問2で回答した親水活動の場として利用している水辺に限らず、すべての水辺についてお聞きします。現在、特に水辺を利用していない人も回答してください。

質問3・1（親水の場として改善した方が良くと思うこと）

【設問】親水活動の場として河川、湖沼、海域を対象とした場合、水辺をもっと利用したくなるようにするために、改善した方が良くと思うことは何ですか。河川、湖沼、海域のそれぞれの水辺について、次の中から2つを選んでください。「その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

満足している

水質

水量

ゴミ

生物の状況

水辺に親しむための周辺施設（遊歩道、ベンチ等）

周辺の自然環境（景観・樹木の有無等）

迷惑害虫（蚊、ハエ、毛虫等）

安全性（防災等）

わからない

その他

【回答】

「河川」の改善

- ・「河川」の改善した方が良く思うことは、全回答者の50%が「水質」で最も高く、次いで「ゴミ」が高く49%、「水辺に親しむための周辺施設（遊歩道、ベンチ等）」が24%、「周辺の自然環境（景観・樹木の有無等）」が21%等である（図2-3-1）。
- ・13%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「親水性のある多自然型護岸への改修」（19件）が最も多く、次いで「トイレなど付帯施設の設置」（4件）、「水辺の環境や利用施設などの周知、広報」（3件）、「環境教育や環境インストラクターの充実」（2件）、「水辺へのアプローチの改善」（1件）、「悪臭の改善」（1件）、「動物の糞尿の除去」（1件）、「河川不法占拠者の退去」（1件）等である。

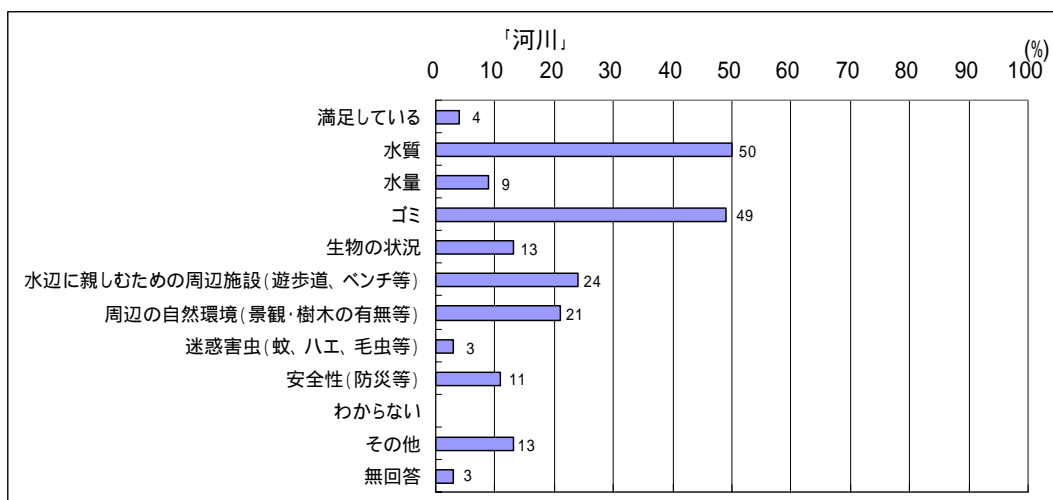


図 2-3-1 親水の間として「河川」の改善した方が良いと思うこと (全回答者)

「湖沼」の改善

- ・「湖沼」の改善した方が良いと思うことは、全回答者の 43%が「水質」で最も高く、次いで「ゴミ」、「周辺の自然環境 (景観・樹木の有無等)」が高く 30%、「水辺に親しむための周辺施設 (遊歩道、ベンチ等)」が 21%等である (図 2-3-2)。
- ・9%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「親水性のある多自然型護岸への改修」(5件)が最も多く、次いで「トイレなど付帯施設の設置」(2件)「イベントの開催」(2件)「水辺へのアプローチの改善」(2件)「水辺の環境や利用施設などの周知、広報」(1件)「環境教育や環境インストラクターの充実」(1件)「悪臭の改善」(1件)「動物の糞尿の除去」(1件)「浅い水深の水辺の創出」(1件)等である。

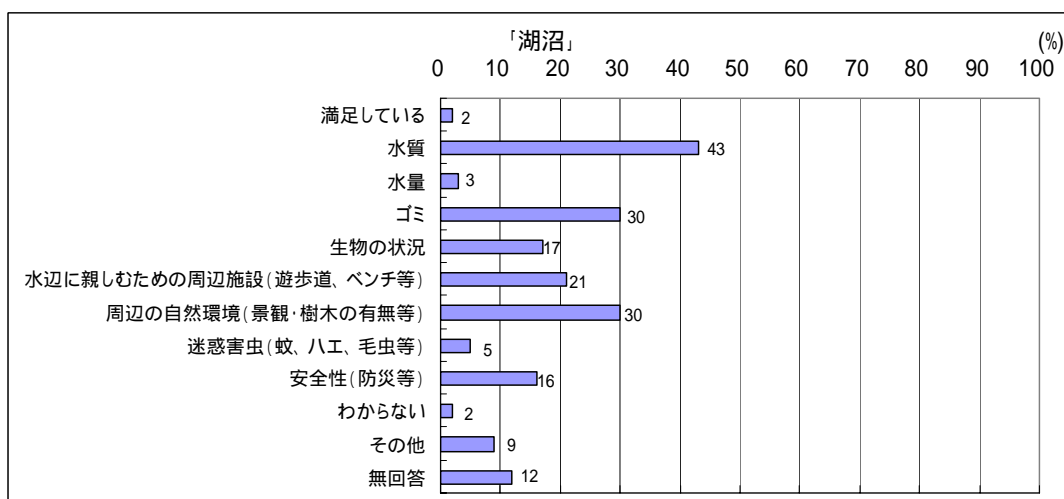


図 2-3-2 親水の間として「湖沼」の改善した方が良いと思うこと (全回答者)

「海域」の改善

- ・「海域」の改善した方が良いと思うことは、全回答者の63%が「ゴミ」で最も高く、次いで「水質」が高く37%、「安全性(防災等)」が20%、「周辺の自然環境(景観・樹木の有無等)」が18%、「水辺に親しむための周辺施設(遊歩道、ベンチ等)」が17%等である(図2-3-3)。
- ・11%の回答者は「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「親水性のある多自然型護岸への改修」(4件)、「トイレなど付帯施設の設置」(3件)、「水辺へのアプローチの改善」(3件)、「水辺の環境や利用施設などの周知、広報」(1件)、「環境教育や環境インストラクターの充実」(1件)、「漂流物の除去」(1件)、「動物の糞尿の除去」(1件)等である。

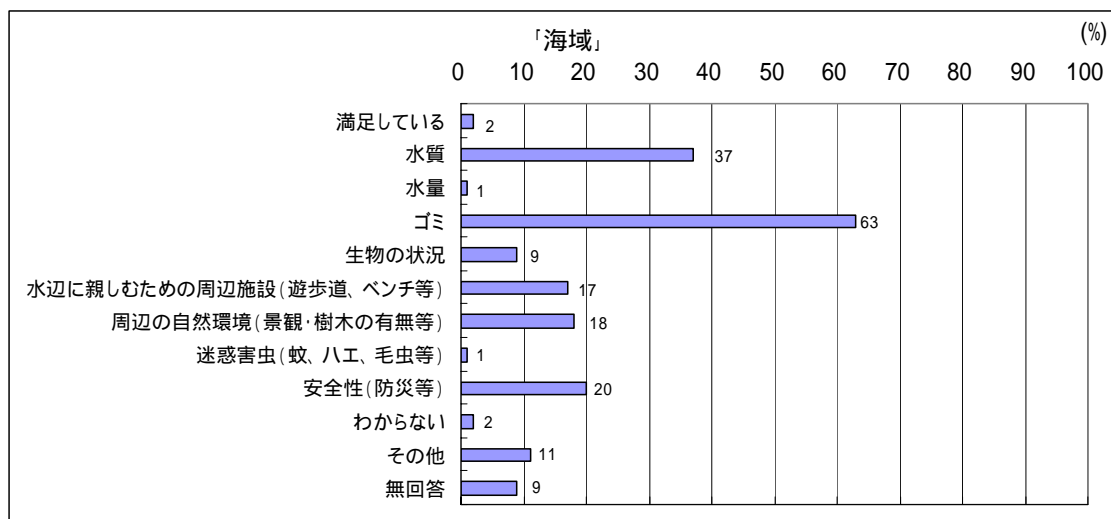


図 2-3-3 親水の間として「海域」の改善した方が良いと思うこと(全回答者)

質問3・2（水質として気になること）

【設問】特に水質として気になることは何ですか。次の中から2つを選んでください。「その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

- におい
- 濁り
- 水の色
- 浮遊物（ゴミ、油等）
- 泡
- 飲んだ場合の安全性
- 生物への影響
- その他

【回答】

- ・水質として気になることは、全回答者の60%が「浮遊物（ゴミ、油等）」で最も高く、次いで「生物への影響」が高く37%、「濁り」が34%、「におい」が24%、「飲んだ場合の安全性」が15%、「水の色」が13%等である（図2-3-4）。
- ・7%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「汚染源となる下水や排水の処理」（7件）「洗剤、農薬あるいはダイオキシンなどの化学物質の含有量」（5件）「底泥の汚染による水質変化」（4件）「富栄養化」（1件）「自然浄化ができない護岸の改修」（1件）等である。

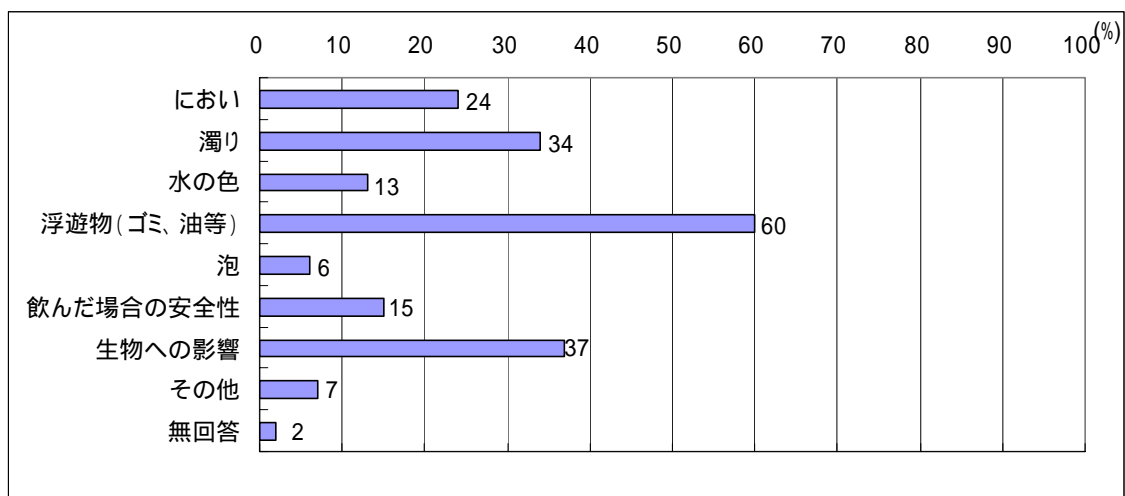


図 2-3-4 水質として気になること（全回答者）

質問3・3（環境が改善された場合の利用）

【設問】水辺の環境が改善された場合、今後、どのような利用をしたいと思いますか。あてはまるものを全て回答してください。「その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

現状の利用とかわらない

遊泳

水遊び（手足をつける程度）

釣り

釣り以外の生き物採取（潮干狩り等）

生き物観察

水辺の散歩やサイクリング等

水面を利用したスポーツ（ボート、カヌー等）

水に触れながら行うスポーツ（ダイビング、サーフィン等）

風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）

その他

【回答】

「河川」の利用のしかた

- ・「河川」の利用のしかたは、全回答者の40%が「水辺の散歩やサイクリング等」、「生き物観察」で最も高く、次いで「風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）」が高く37%、「水遊び（手足をつける程度）」が31%、「現状の利用とかわらない」が27%等である（図2-3-5）。
- ・5%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「飲用する」（2件）「魚やホタルなどの生物を放流」（2件）「河川敷におけるバーベキューなどのレクリエーション」（1件）「環境教育の場」（1件）「生物とのふれあいの場」（1件）「イベントの開催」（1件）等である。

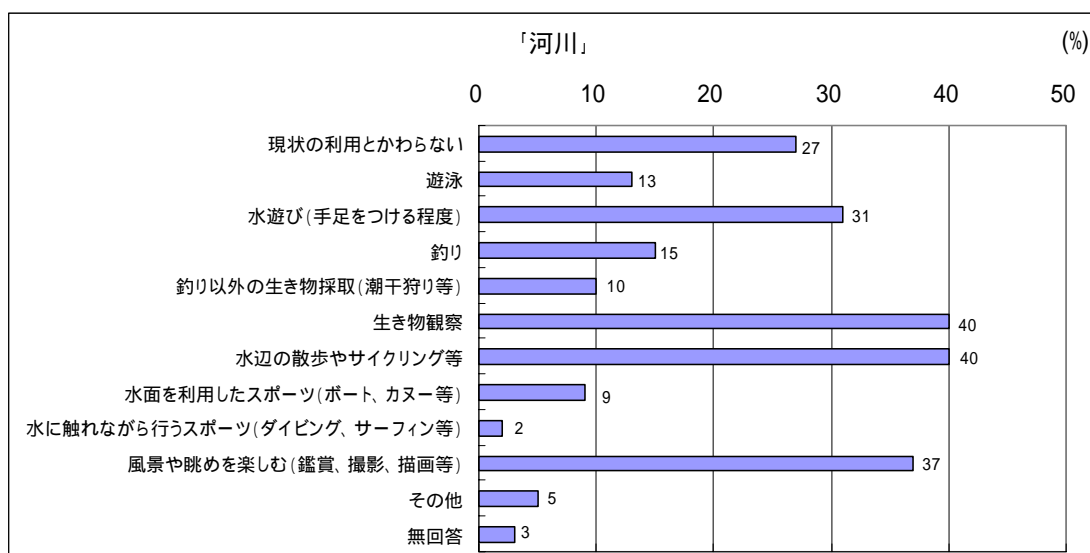


図 2-3-5 「河川」の利用のしかた（全回答者）

「湖沼」の利用のしかた

- ・「湖沼」の利用のしかたは、全回答者の 45%が「風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）」で最も高く、次いで「水辺の散歩やサイクリング等」が高く 38%、「生き物観察」が 29%、「現状の利用とかわらない」が 22%等である（図 2-3-6）。
- ・3%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「キャンプなどのレクリエーション」（1件）、「環境教育の場」（1件）、「イベントの開催」（1件）等である。

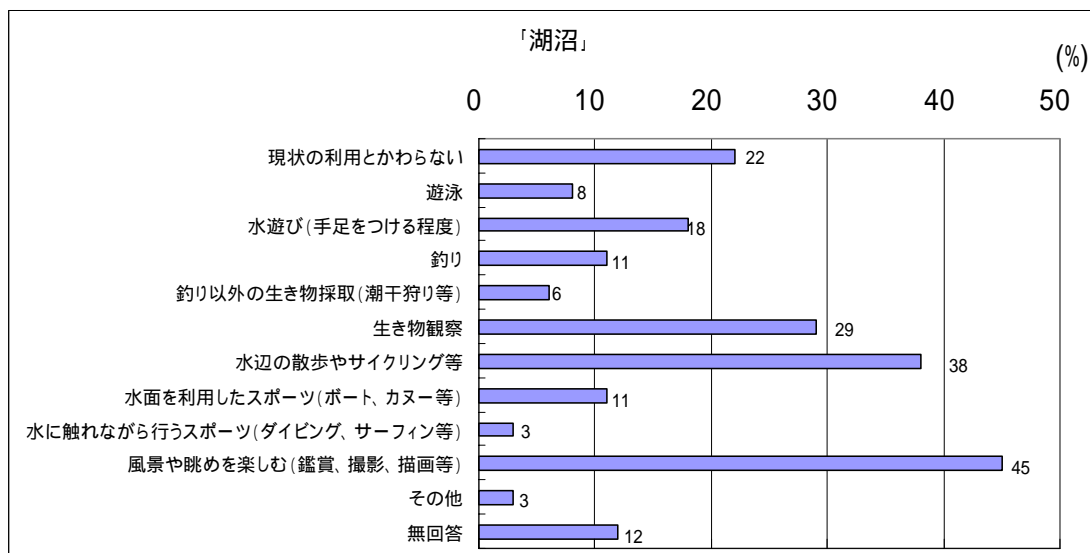


図 2-3-6 「湖沼」の利用のしかた（全回答者）

「海域」の利用のしかた

- ・「海域」の利用のしかたは、全回答者の39%が「風景や眺めを楽しむ（鑑賞、撮影、描画等）」で最も高く、次いで「遊泳」が高く34%、「現状の利用とかわらない」が25%等である（図2-3-7）。
- ・3%の回答者は「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「遊覧船に乗るなどのレクリエーション」（1件）、「環境教育の場」（1件）、「イベントの開催」（1件）等である。

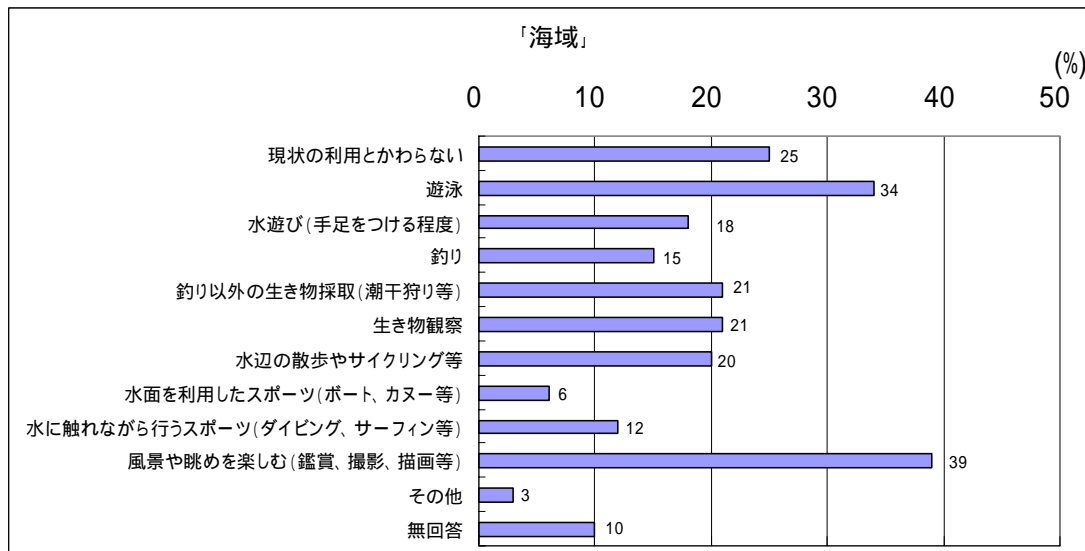


図 2-3-7 「海域」の利用のしかた（全回答者）

2.4 水質環境基準等について

質問4

【設問】日本では、環境基本法に基づいて水質の環境基準が定められており、そのうちの「生活環境項目」は、生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準とされています。この水質の環境基準（生活環境項目）についてお聞きします。

質問4・1（生活環境項目について）

【設問】水質の環境基準のうち、「聞いたことがある項目」と、「何を示す項目であるか知っている」ものについて教えてください。それぞれ、該当する項目がある場合は、次の表に「」を記入してください。

	聞いたことがある項目	何を示す項目であるか知っている
pH(水素イオン濃度)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
BOD(生物化学的酸素要求量)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
COD(化学的酸素要求量)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SS(浮遊物質)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
DO(溶存酸素量)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大腸菌群数	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
n-ヘキサン抽出物	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
T-N(全窒素)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
T-P(全燐)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
全亜鉛	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【回答】

「聞いたことがある項目」

- ・「聞いたことがある項目」は、全回答者の50%以上が「pH(水素イオン濃度)」、「BOD(生物化学的酸素要求量)」、「COD(化学的酸素要求量)」、「SS(浮遊物質)」、「大腸菌群数」であり、このうち「pH(水素イオン濃度)」及び「大腸菌群数」は高く80%以上である。なお、最も低い項目は「n-ヘキサン抽出物」であり、全回答者の28%である(図2-4-1)。

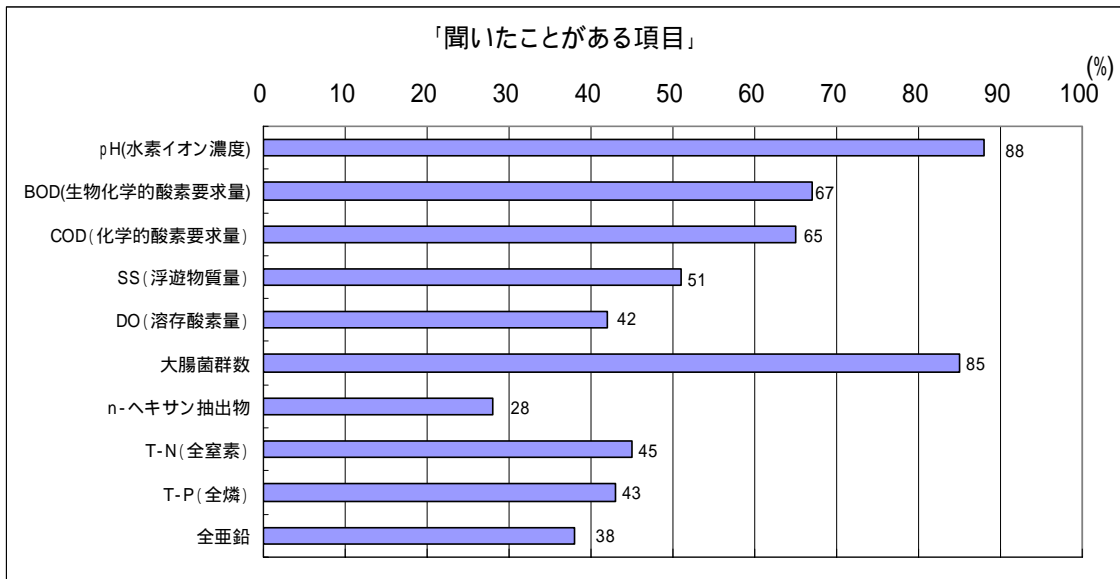


図 2-4-1 聞いたことがある水質環境基準（生活環境項目）の項目（全回答者）

「何を示す項目であるか知っている」

・「何を示す項目であるか知っている」は、全回答者の50%以上が「pH(水素イオン濃度)」、「BOD(生物化学的酸素要求量)」、「大腸菌群数」であり、このうち「pH(水素イオン濃度)」及び「大腸菌群数」は高く60%以上である（図 2-4-2）。

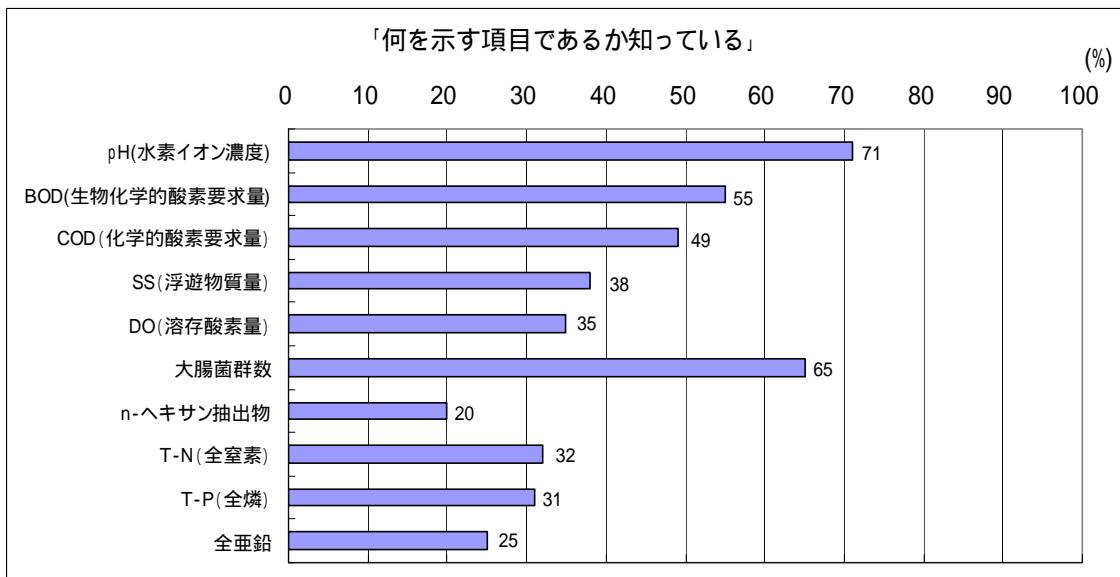


図 2-4-2 何を示すか知っている水質環境基準（生活環境項目）の項目（全回答者）

質問4・2（その他の水の状態を表す指標について）

【設問】質問4・1の他、様々な水の状態をあらわす指標があります。それらのうち、次の指標について、「聞いたことがある項目」と、「何を示す項目であるか知っている」ものについて教えてください。それぞれ、該当する項目がある場合は、次の表に「 」を記入してください。

	聞いたことがある項目	何を示す項目であるか知っている
臭気		
濁度		
透明度・透視度		
TOC（全有機炭素）		
色度		
アンモニア		
生物指標		

【回答】

「聞いたことがある項目」

- ・全回答者の50%以上が聞いたことがある項目は、「臭気」、「濁度」、「透明度・透視度」、「アンモニア」、「生物指標」であり、このうち「臭気」、「濁度」、「透明度・透視度」は高く80%以上である。なお、最も低い項目は「TOC（全有機炭素）」であり、聞いたことがあると答えたのは、全回答者の30%である（図2-4-3）。

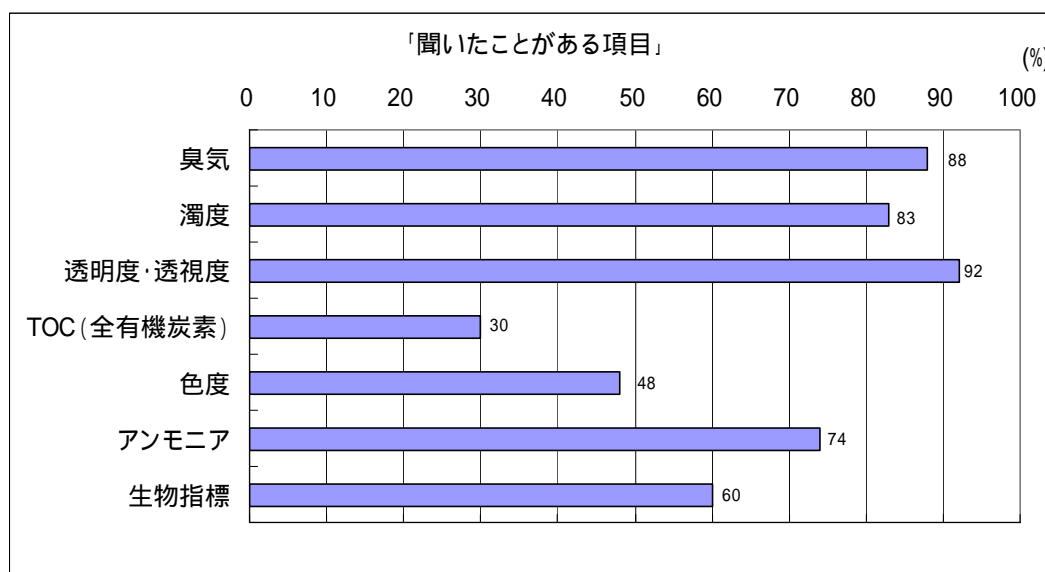


図2-4-3 聞いたことがあるその他の水の状態を表す指標（全回答者）

「何を示す項目であるか知っている」

- ・全回答者の50%以上が何を示すか知っている項目は、「臭気」、「濁度」、「透明度・透視度」、「アンモニア」であり、このうち「臭気」、「濁度」、「透明度・透視度」は高く60%以上である(図2-4-4)

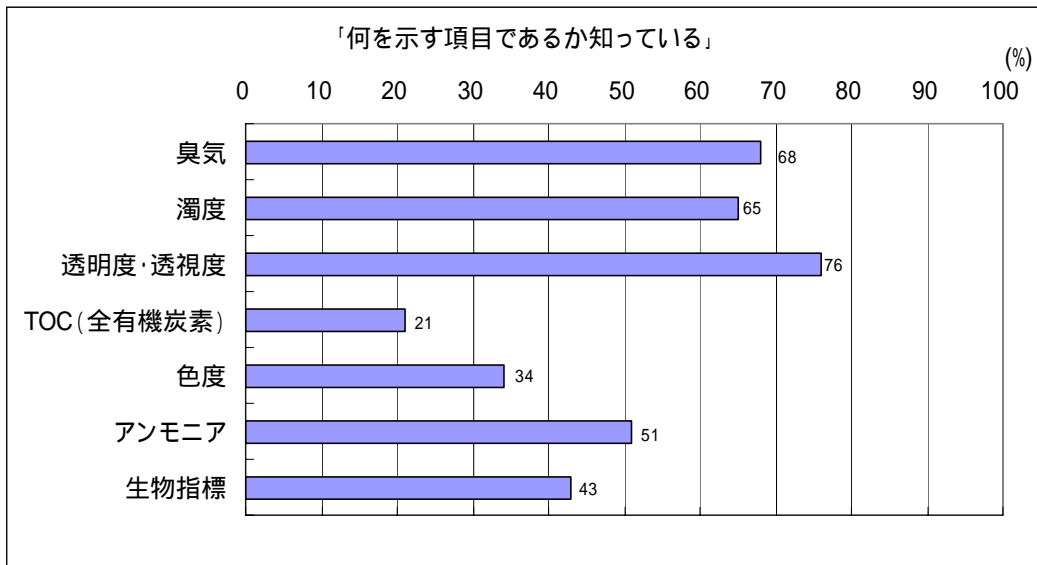


図 2-4-4 何を示す項目であるか知っているその他の水質指標 (全回答者)

2.5 水環境保全活動

質問5

【設問】あなたが実際に行っている水環境を保全するための様々な活動について教えてください。

質問5・1（参加状況）

【設問】あなたは水環境を保全する活動に参加したことはありますか。次の中から1つを選んでください。

よく参加する

参加したことがある

参加したいと思っているが機会がない

参加するつもりはない

を回答した人は質問6へ

を回答した人は質問6へ

【回答】

- ・水環境保全活動への参加については、全回答者の49%が「参加したことがある」で最も高く、次いで「参加したいと思っているが機会がない」が30%、「よく参加する」が18%等である（図2-5-1）。また、「よく参加する」と「参加したことがある」を合わせると全回答者の67%になる。
- ・性別では、男性、女性とも全回答者と同様に「参加したことがある」、「参加したいと思っているが機会がない」の順となっている（図2-5-2）。また、「よく参加する」と「参加したことがある」を合わせると、女性に比べて男性が高い。
- ・年齢層別にみると、「よく参加する」は60歳以上の回答者が最も高く、年齢層が高いほど参加する割合が高くなっている（図2-5-3）。

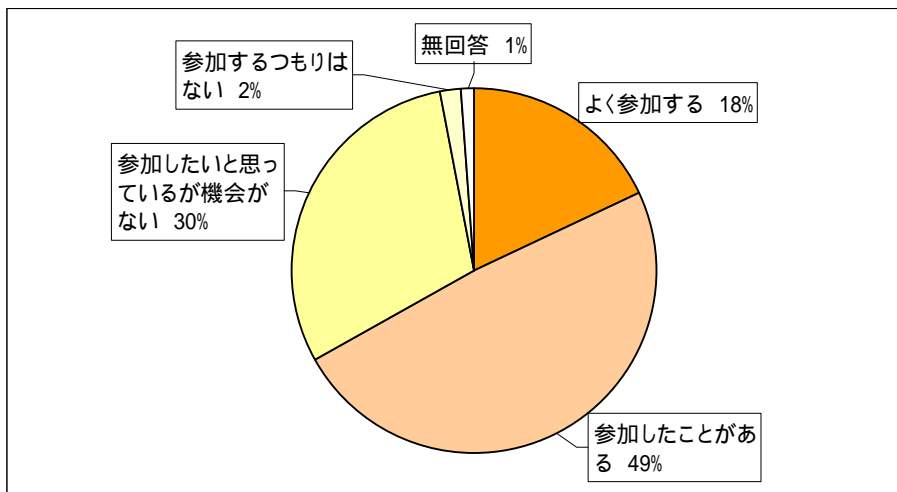


図 2-5-1 水環境保全活動への参加（全回答者）

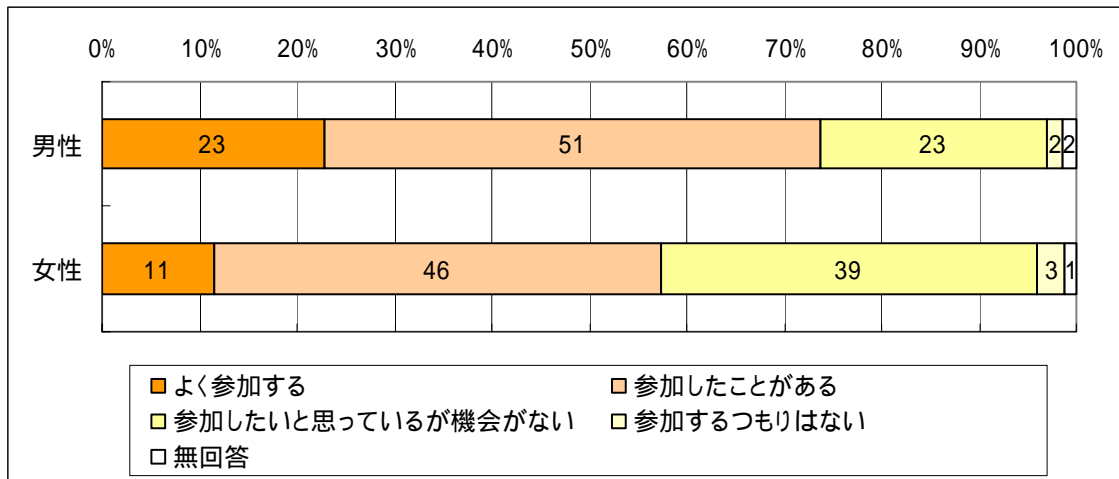


図 2-5-2 水環境保全活動への参加（性別）

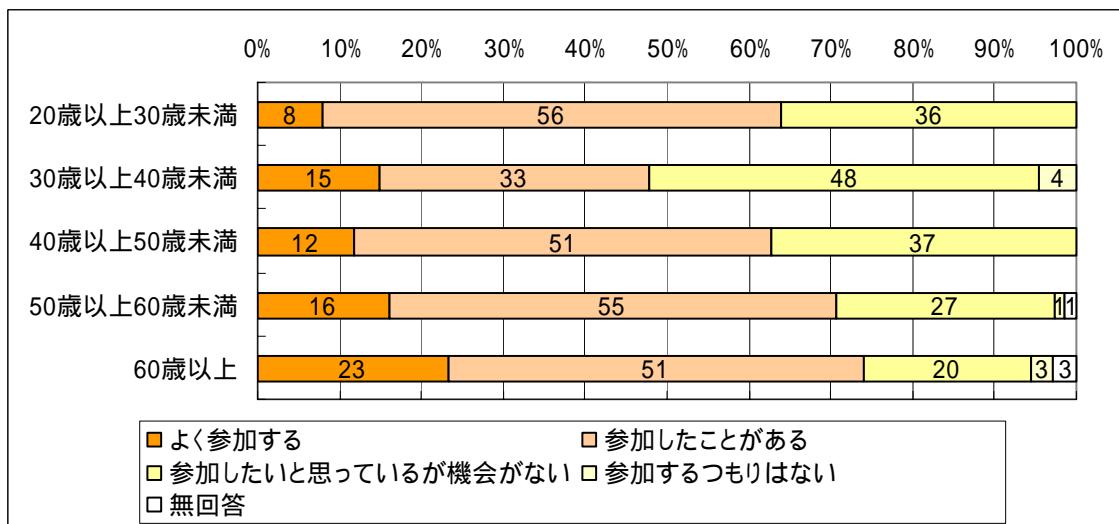


図 2-5-3 水環境保全活動への参加（年齢層別）

質問5・2（水環境保全活動の内容）

【設問】質問5・1で参加したことがある（と）と答えた方は、具体的な活動内容についても教えてください。次の中から該当するものを全て回答してください。「その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

- 水辺や水底の清掃活動
- 水質や動植物の生態調査
- 動植物の保全活動
- 環境教育などの普及啓発活動
- 環境にやさしい生活用品などの製作、頒布
- 水環境保全のための計画づくり
- その他

【回答】

- ・水環境保全活動の内容は、回答者(質問5・1で参加したことがある（と）と答えた250人)の72%が「水辺や水底の清掃活動」で最も高く、次いで「環境教育などの普及啓発活動」が高く53%、「水質や動植物の生態調査」が49%等である(図2-5-4)。
- ・18%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「微生物散布による水質改善」(5件)、「環境モニターによる保全活動」(3件)、「工事などの住民説明会に参加して環境保全を訴える」(2件)、「ISO14000活動の審査」(1件)、「不法投棄の監視」(1件)等である。

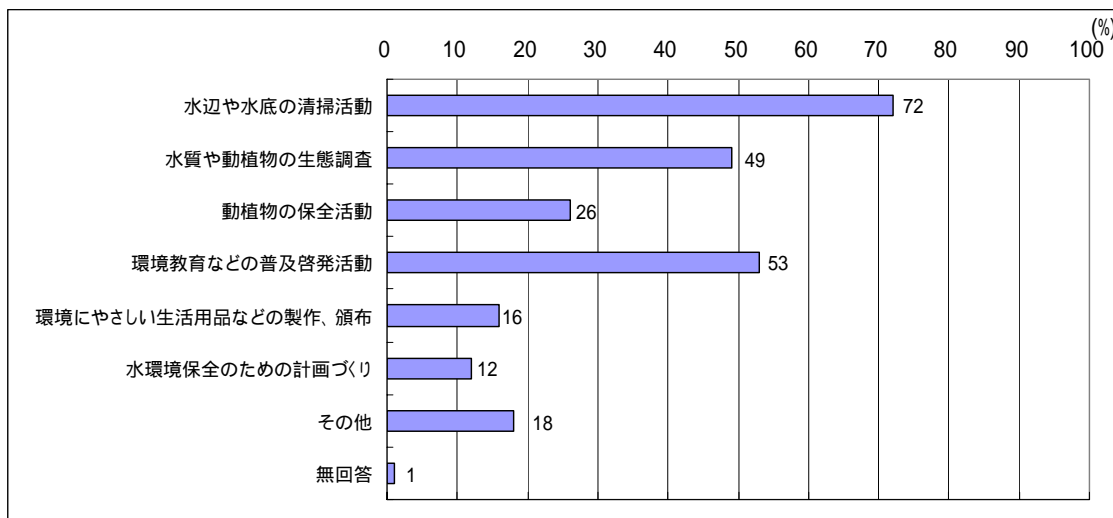


図2-5-4 水環境保全活動の内容(回答者:質問5・1で参加したことがある（と）と答えた250人)

2.6 水環境保全に関する家庭での取組

質問6

【設問】水環境の保全のために家庭などで、取り組んでいることはありますか。あてはまるものを全て回答してください。「その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

<キッチンで>

洗剤使用量を少なくする

油を流さない

食器は一旦汚れを拭き取ってから洗う

キッチンの排水口にネットを取り付けてゴミが流れないようにする

<洗濯で>

洗剤は適量を使用する

洗濯物はまとめて一度に済ます

<お風呂で>

シャワー等の水の無駄遣いを減らす

お湯の残り湯の再利用

<全般的に>

その他水の使用量を減らす工夫

その他

特になし

【回答】

- ・水環境保全に関する家庭での取組は、全回答者の50%以上がキッチンで「洗剤使用量を少なくする」、「油を流さない」、「食器は一旦汚れを拭き取ってから洗う」、「キッチンの排水口にネットを取り付けてゴミが流れないようにする」、洗濯で「洗剤は適量を使用する」、「洗濯物はまとめて一度に済ます」、お風呂で「シャワー等の水の無駄遣いを減らす」、「お湯の残り湯の再利用」等、ほとんどの取組を行っており、家庭における水環境の保全意識の高さを示している(図2-6-1)。
- ・24%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「台所、風呂あるいはトイレで環境負荷の大きい合成洗剤などの使用は控える」(32件)が最も多く、次いで「雨水を利用する」(26件)、「米のとぎ汁を流さない」(20件)、「水道の流量をできるだけ控えて使用する」(10件)、「シャンプーやリンスの使用量を控える」(4件)、「残飯をなるべく出さない」(3件)、「微生物を散布する」(2件)、「排水溝付近の清掃」(2件)、「井戸水を利用」(1件)、「節水機能の電化製品を使う」(1件)、「入浴剤を使用しない」(1件)、「環境教育を行う」(1件)、「雑排水と雨水の排水を分離している」(1件)、「家庭排水を堆肥作成のために使用する」(1件)、「排水を地中に導水する」(1件)、「小型合併処理浄化槽を設置」(1件)等である。

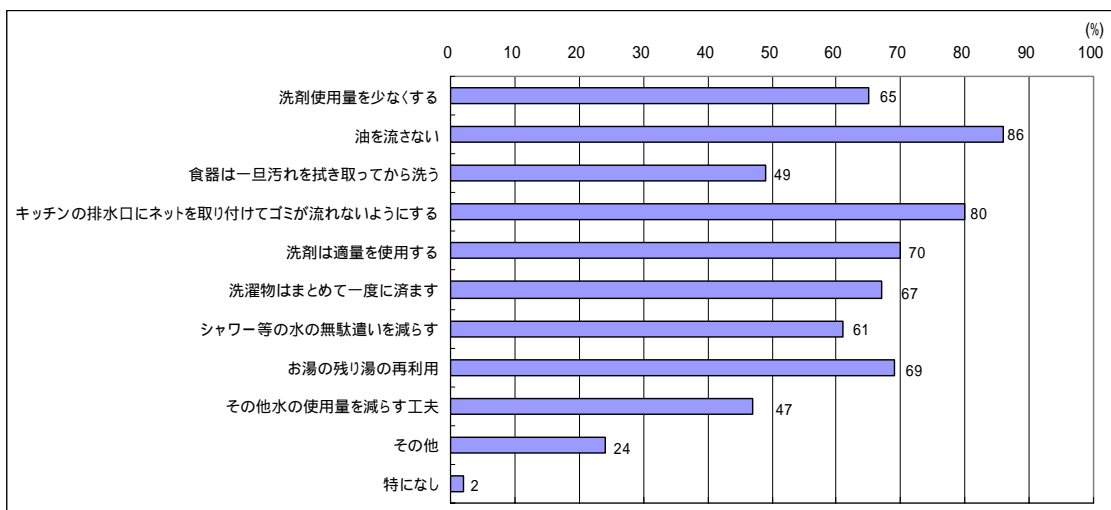


図 2-6-1 水環境保全に関する家庭での取組（全回答者）

2.7 水環境に関する情報の入手

質問7

【設問】水環境に関する情報をどこから得ていますか。あてはまるものを全て回答してください。「

その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

自治体の広報資料(全戸配布)

インターネット

テレビ・ラジオ・新聞

一般書籍・雑誌

学術誌・学会誌

伝聞

セミナー・シンポジウム

特になし

その他

【回答】

- ・水環境に関する情報の入手は、全回答者の76%が「テレビ・ラジオ・新聞」で最も高く、次いで「自治体の広報資料(全戸配布)」が高く63%、「セミナー・シンポジウム」が44%、「一般書籍・雑誌」が42%等である(図2-7-1)。
- ・年齢層別にみても、全ての年齢層で「テレビ・ラジオ・新聞」が最も高い。なお、「自治体の広報資料(全戸配布)」は20歳以上30歳未満、「インターネット」は60歳以上の回答者において、それぞれ低い傾向を示している(図2-7-2)。
- ・14%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「所属団体の交流、勉強会」(16件)が最も多く、次いで「団体の会報誌・機関誌」(10件)、「自ら調査する」(4件)、「審議会などの会議」(3件)、「社会見学や環境学習」(3件)、「業務関連の話題」(2件)、「官公庁の掲示板」(1件)等である。

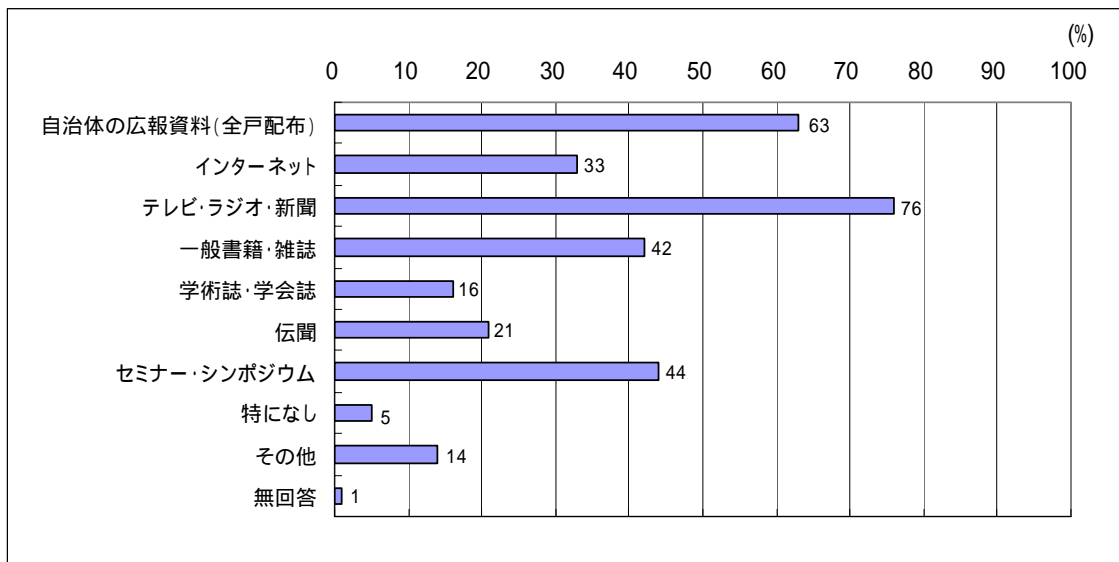


図 2-7-1 水環境に関する情報の入手（全回答者）

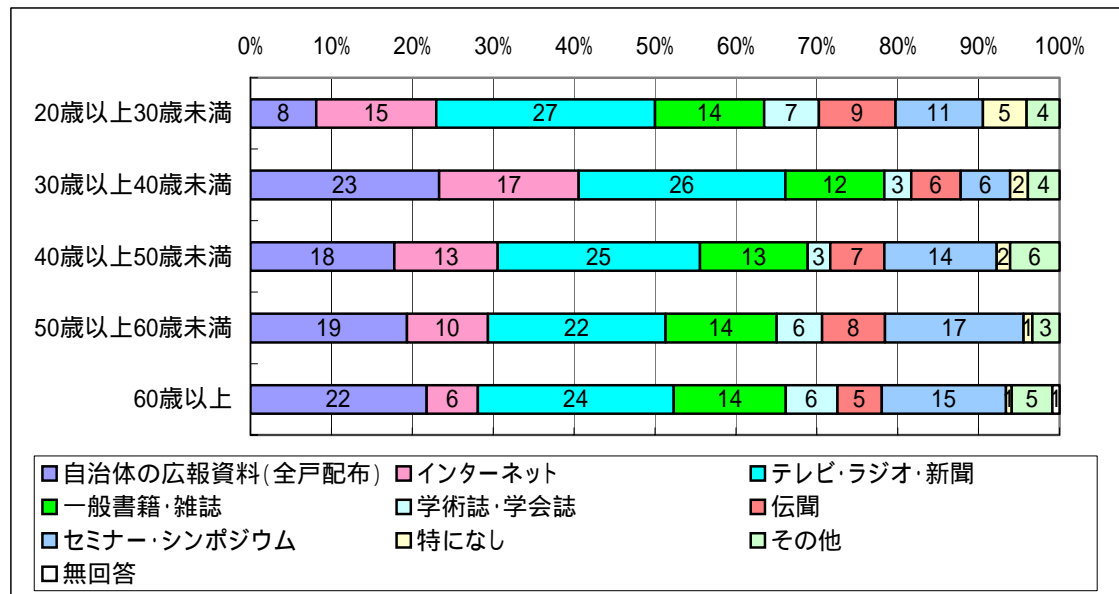


図 2-7-2 水環境に関する情報の入手（年齢層別）

2.8 水環境保全の取組に必要な情報

質問 8

【設問】水環境保全の取組を行う上で、どのような情報を必要としていますか。次の中から1つを選んでください。「その他」を選んだ場合は、具体的内容についても回答してください。

水が汚れる原因などの情報

どのようなことをすれば水環境保全に効果があるのかについての情報

水環境保全の活動に取り組んでいる身近な団体があるかについての情報

水環境保全の活動をするのに、どれくらいの時間や負担がかかるかについての情報

水環境の悪化が健康などの人間の生活に与える影響

その他

【回答】

- ・水環境保全の取組に必要な情報は、全回答者の38%が「どのようなことをすれば水環境保全に効果があるのかについての情報」で最も高く、次いで「水環境の悪化が健康などの人間の生活に与える影響」が高く30%、「水が汚れる原因などの情報」が15%等である（図2-8-1）。
- ・6%の回答者が「その他」を選択している。「その他」の具体的内容は、「実施した、あるいは予定されている環境政策や取組の情報」（2件）、「地下水や土壌に含まれる農薬など有害物質の情報」（2件）、「家庭から排出される洗剤などが環境に与える影響についての情報」（2件）、「リアルタイムで公共に役立つ環境項目の情報」（2件）、「環境の監視やその対策を行っている組織の情報」（1件）、「一般的な水質項目データを入手する情報」（1件）、「環境モラルを高めるための情報」（1件）等である。

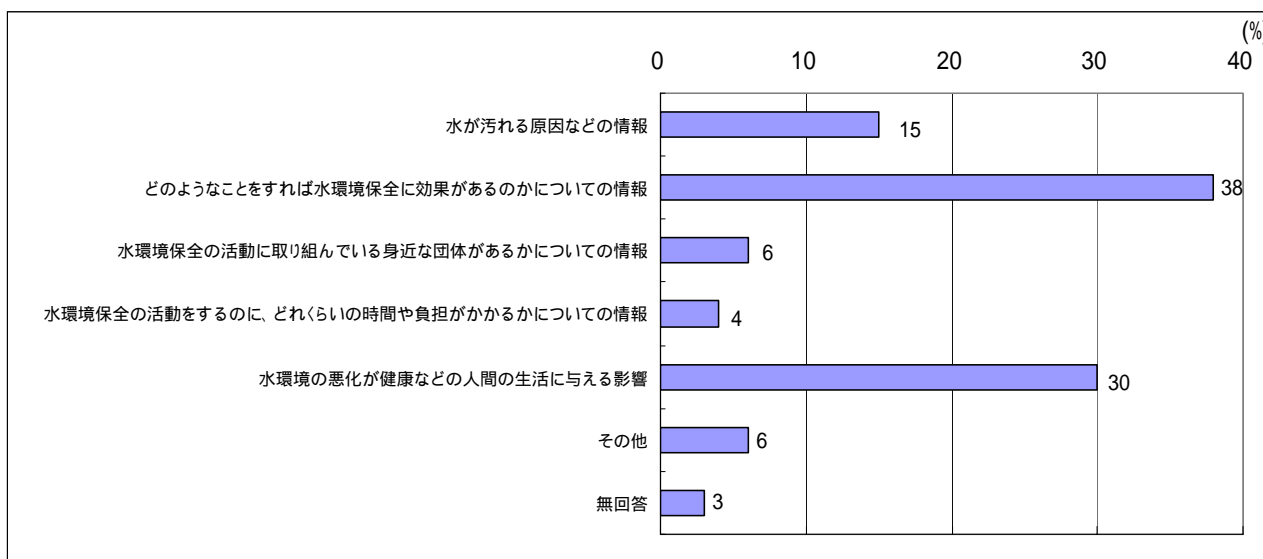


図 2-8-1 環境保全の取組に必要な情報（全回答者）

2.9 水辺の環境に関する意見

質問9

【設問】お尋ねした水辺の環境について自由な意見を御記入ください。

【回答】

- ・水辺の環境に関する意見は、全回答者（376名）のうち81%（305名）の記入があった。
- ・「環境教育などの普及啓発活動」に関するものが最も多く67件であり、次いで「水質・底質の改善」に関するものが57件などである。このほかの意見では、「全般的な環境行政のあり方」、「ゴミなどを排除した景観の美化」、「親水性のある水辺環境へ改修・改善」等に関する意見があった。
- ・主なキーワードは、次のとおりである。

環境教育など普及啓発活動：「学校教育」、「意識」、「関心」、「モラル」

水質・底質の改善：「水の汚れ」、「排水」、「悪臭」、「用水路」、「生物」

全般的な環境行政のあり方：「規制」、「対策」、「監視」、「仕組み」、「指導」

ゴミなどを排除した景観の美化：「見た目」、「ポイ捨て」、「モラル」、「持ち帰り」

親水性のある水辺環境へ改修・改善：「多自然型護岸」、「子供」、「水遊び」、「暗渠」、「危険な場所」、「生物」、「エコトーン」

3. 過去のアンケート結果との比較

過去に行った環境モニター・アンケートの内、同様の質問を行った項目について比較を行った。

過去のアンケート調査

平成 9 年度 「湖沼環境について」アンケート 回答者 1,315 人

平成 16 年度 「湖沼環境について」アンケート 回答者 429 人

3.1 水環境保全活動（質問 5）

1) 水環境保全活動への参加

平成 16 年度及び平成 18 年度に水環境保全活動への参加について聞いた同様の質問では、参加したことがある回答者が平成 16 年度で 68%、平成 18 年度で 67%であり、ほぼ同率である。また、参加したことがない回答者も両年度とも 32%で同率である（図 3-1-1）。

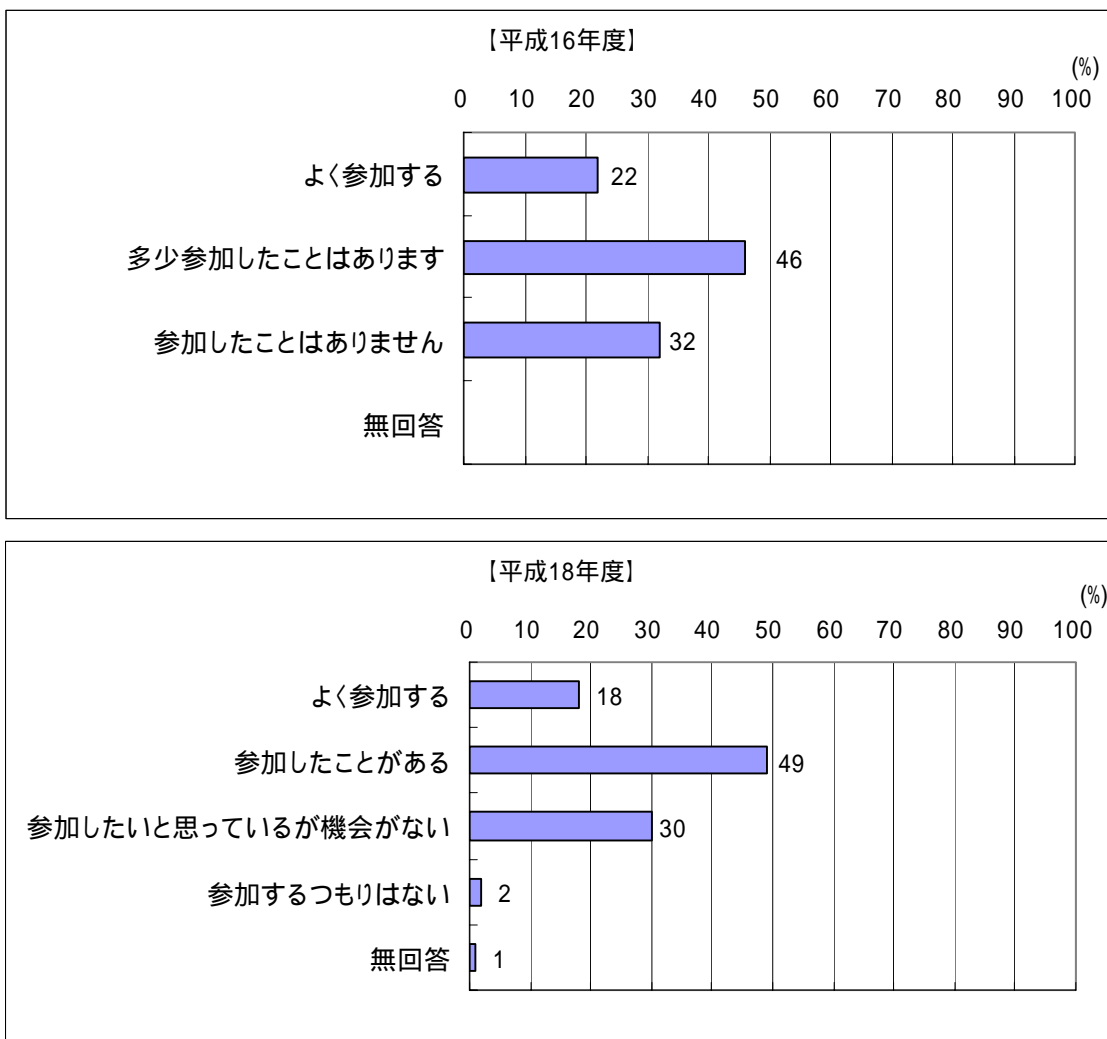


図 3-1-1 水環境保全活動への参加（年度比較）

2) 水環境保全活動の内容

平成 16 年度及び平成 18 年度とも「水辺や水底の清掃活動」が最も高くそれぞれ 62%、72% であり、次いで「環境教育などの普及啓発活動」が高く、それぞれ 54%、53% 等である（図 3-1-2）。

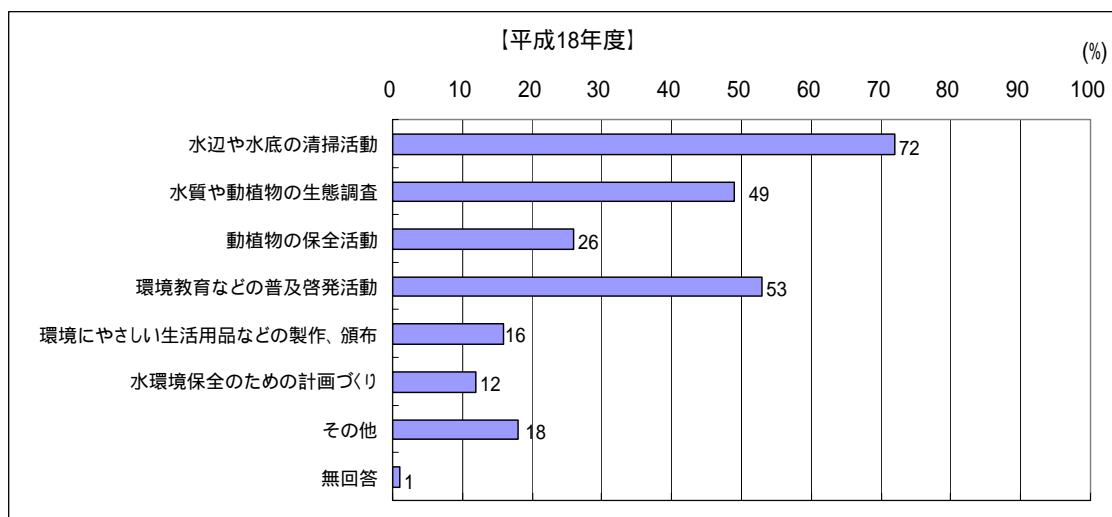
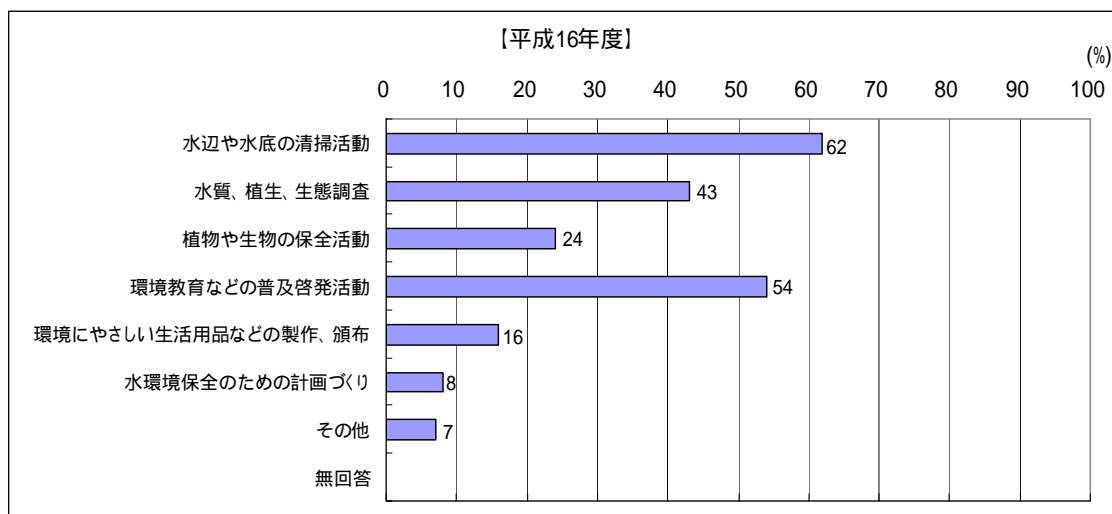


図 3-1-2 水環境保全活動の内容（年度比較）

3.2 水環境保全に関する家庭での取組（質問6）

平成9年度、平成16年度及び平成18年度に聞いた家庭での水環境保全に関する取組については、各年度ともキッチンで「油を流さない」が最も高くそれぞれ87%、85%、86%である。また、「洗剤使用量」や「キッチンの排水口におけるゴミの流出止め」等の取組も各年度を通じて高い。（図3-2-1）。

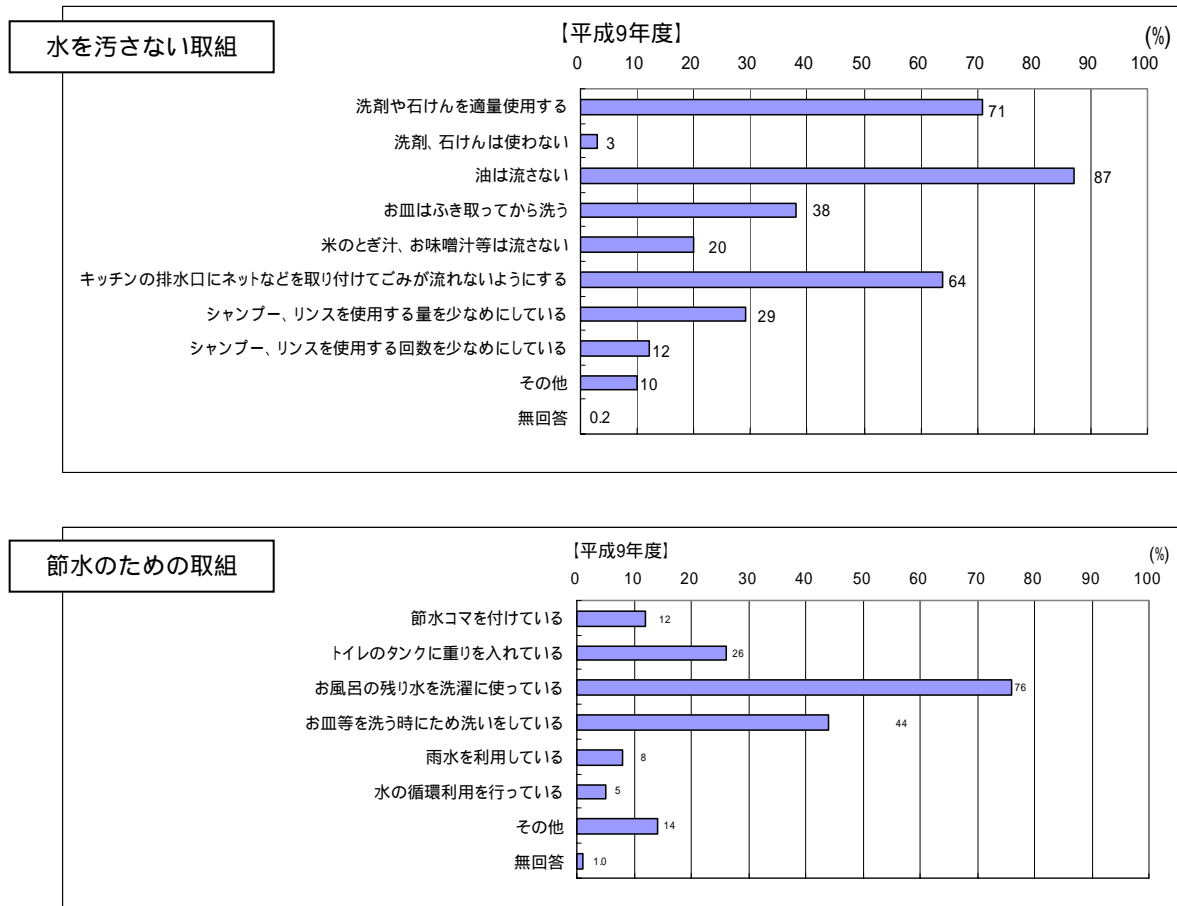


図3-2-1（1） 水環境保全に関する家庭での取組（年度比較）

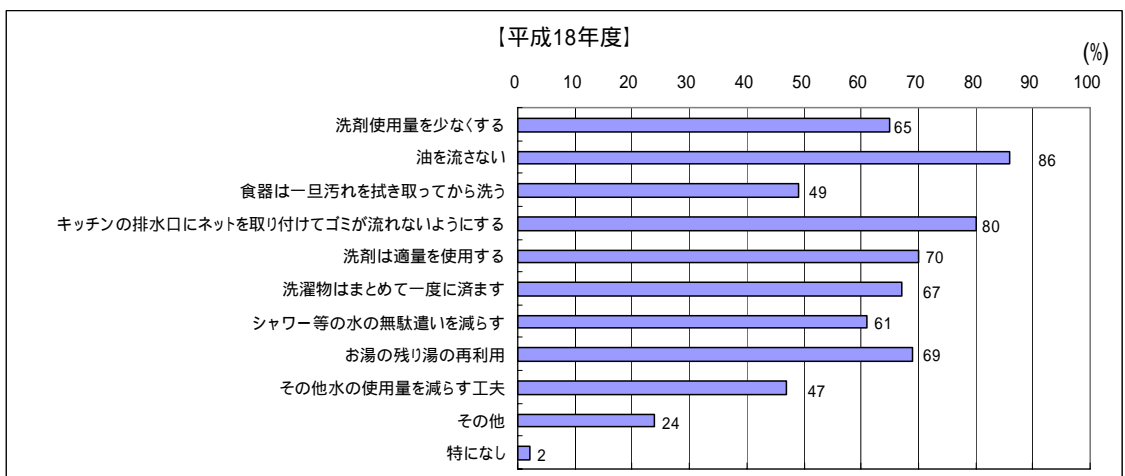
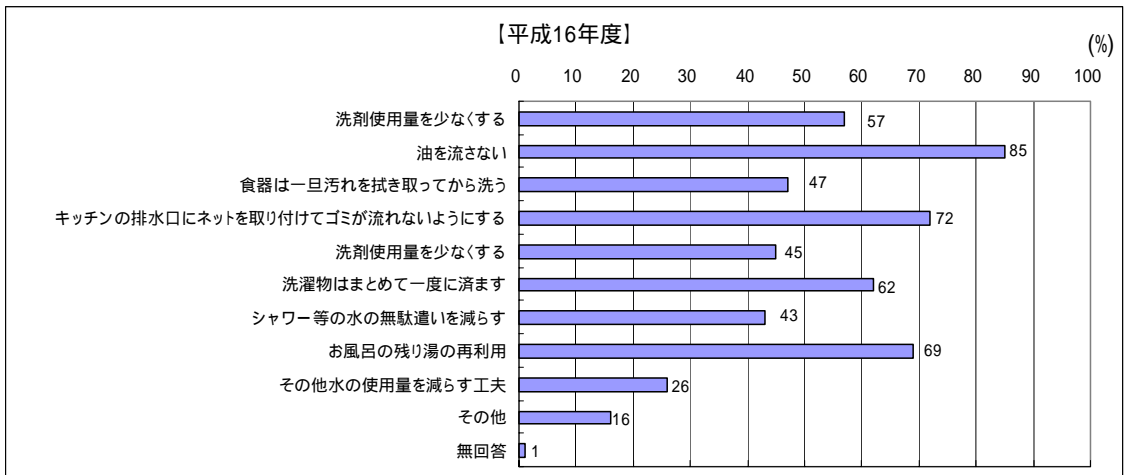


図 3-2-1 (2) 水環境保全に関する家庭での取組 (年度比較)

3.3 水環境保全に関する情報（質問8）

平成16年度及び平成18年度に聞いた水環境保全活動に必要な情報については、両年度とも「どのようなことをすれば水環境保全に効果があるのかについての情報」という回答が最も高く両年度とも38%、次いで「水環境の悪化が健康などの人間の生活に与える影響」、「水が汚れる原因などの情報」等である。両年度とも必要とされている情報は共通している（図3-3-1）。

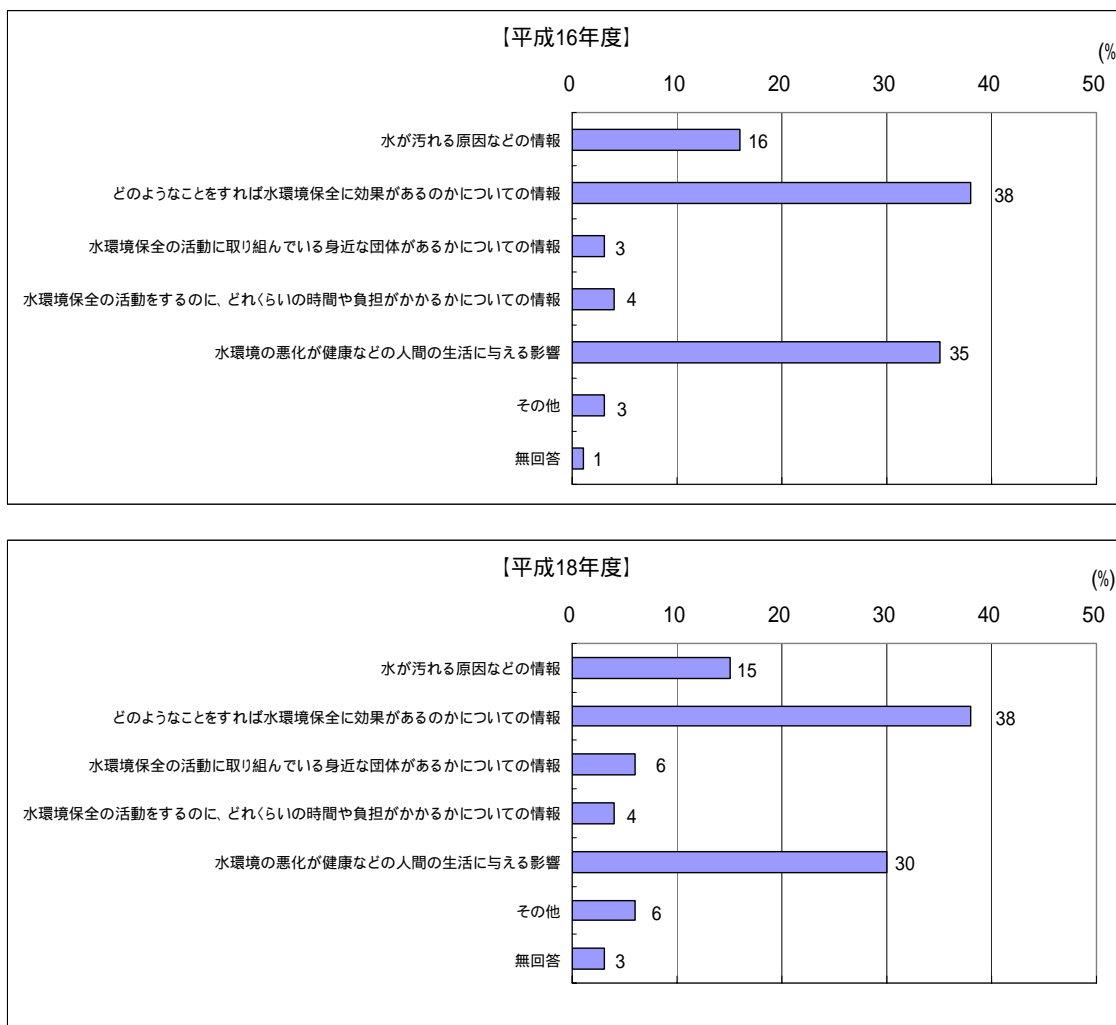


図3-3-1 水環境保全活動に必要な情報（年度比較）